

シラバス

(講義計画)

2024 年度 (令和 6 年度)

1 年次 (23 期生)
2 年次 (22 期生)
3 年次 (21 期生)



桔梗
(花言葉 気品・誠実)

長崎市医師会看護専門学校 第 1 看護学科

学籍番号 _____

学生氏名 _____

教育理念

看護専門職としての志を高く持ち、

自ら学び、考え、行動する

看護実践者の育成

看護職は、憲法 25 条に規定する国の責務である社会福祉を実現するための、専門的な職種として存在する。

本校は、看護の専門的能力と自律性を持つ職業人を育成するための基礎教育機関である。

本校に学ぶ者は、生命の尊厳を基盤とし、人間が人間に直接的に関わる実践的な職業である看護の知識・技術を、専門的に体系化された教育課程に基づいて習得する。同時に対象の多様なニーズに応えるための、コミュニケーション能力、共感し洞察する能力、問題解決力、意思決定・判断力、調整力、多職種と協働する能力等を総合的に学び取っていかなければならない。さらに、看護に求められるものは時代の要請により、高度化、複雑化することを前提に、卒業した後もたゆまぬ努力によって自己研鑽する責務があり、そのための主体的な自己学習の姿勢を養う必要がある。

本校は、前述した高い志を持って学ぶ者が、その生涯を通して、看護という手段を用いて具体的に地域社会の医療及び公衆衛生に貢献できるよう、誠実に教育を行うものである。

主要概念の定義

人間とは

人間は、変化する環境の中で、身体的・精神的、さらに社会的に統合されている存在である。

人間は、個としての存在であり、他者との関係の中で影響しあいながら、生活者としてよりよく生きていく存在である。

人間は、胎生期から老年期までのいずれかの発達段階にあり、可能性をもち成長・発達する存在である。

環境とは

環境は、内部環境と外部環境があり、人間とその生活を取り巻くすべてである。人間は環境との相互作用の中でホメオスタシスを保つことで生命を維持している。人間の健康は環境に影響を受けるとともに、人間も環境を変化させる存在である。

健康とは

身体的・心理的・社会的に調和のとれた状態である。個々の人間がおかれている環境の中で、それぞれの価値観をもち自己の可能性を最大限に発揮して生活している状態である。

健康は生きていく上での権利として、誰にでも平等に保障され社会生活の基盤となっている。

看護とは

看護は、あらゆる年代の個人、家族、集団、地域社会を対象として、健康の保持増進、疾病予防・疾病のコントロール、健康回復、苦痛の緩和を行い、さらに生涯を通してその人らしく最期まで生を全うできるようにすることである。

看護活動は、その人の生命力を高め、身体的・精神的・社会的に支援することである。

教育とは

学習者が自己実現に向かって主体的に取り組むことができるよう働きかけることである。そして、学習者と教育者は相互関係の中で成長しあうものである。

看護実践とは

看護実践は、看護職が対象に働きかける行為であり、看護実践の知識基盤は、ケアに不可欠な創造性、支援者としての自己認識、対象者にとって善悪を判断する倫理が含まれ、実践にはこれらが組み合わさって用いられる。

臨床判断とは

臨床判断は、患者情報、臨床的な知識、状況に関する情報を考慮し認知的な熟考と直感的な過程によって、観察事項、観察された情報の推論、援助活動の決定を下すこと。

地域で生活する人とは

すべての発達段階や様々な心身の健康状態にある人たちが、多種多様な場面でその人らしさを模索、構築、遂行しながら、おかれた場所で生活を営む人

暮らしとは

その人のライフスタイルをもって、一日一日を過ごしていくこと

＊ライフスタイル

生活の様式・営み方。また、人生観・価値観・習慣などを含めた個人の生き方。

目 次

シラバスの活用について	1
シラバスにおける実務経験の標記について	2
分野の考え方	3
1 年次履修科目	
教育課程 履修科目一覧	4
授業進度表	5
基礎分野	
科学的思考の基盤	
論理学	6
情報科学Ⅰ（情報通信技術活用の基礎）	7
人間と生活・社会の理解	
心理学	8
人間関係論（A組）	9
人間関係論（B組）	10
社会学	11
英語Ⅰ	12
健康とレクリエーション体育	14
看護コミュニケーション論	15
専門基礎分野	
人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	
人体の構造としくみ	16
人体の生理機能	17
代謝栄養学（生化学／栄養学）	18
疾病論Ⅰ（呼吸／循環）	19
疾病論Ⅱ（消化器／内分泌・代謝）	20
疾病論Ⅲ（血液造血／免疫／腎）	21
疾病論Ⅳ（脳神経／運動器）	22
疾病論Ⅴ（手術療法／泌尿器／女性生殖器）	23
疾病論Ⅶ（微生物学・感染症）	24
治療総論（薬理学）	25
専門分野	
基礎看護学 看護学概論	26
基礎看護学 フィジカルアセスメント	27
基礎看護学 日常生活援助技術Ⅰ（生活環境／活動と休息）	28
基礎看護学 日常生活援助技術Ⅱ（栄養と食生活／排泄）	29
基礎看護学 日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）	30
基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防／周手術期看護／呼吸ケア）	31
基礎看護学 看護過程と看護記録	32
地域・在宅看護論 地域・在宅看護論概論	33
地域・在宅看護論 地域における暮らしの理解	34
成人看護学 成人看護学概論	35

老年看護学	老年看護学概論	-----	36
小児看護学	小児看護学概論	-----	37
母性看護学	母性看護学概論	-----	38
精神看護学	精神看護学概論	-----	39

2年次履修科目

教育課程	履修科目一覧	-----	40
授業進度表		-----	41

基礎分野

科学的思考の基盤

情報科学Ⅱ（情報通信技術活用法）	-----	42
教育学	-----	43

人間と生活・社会の理解

文学	-----	44
英語Ⅱ（日常会話）	-----	45

専門基礎分野

人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進

疾病の成り立ち（病理学）	-----	46
疾病論Ⅵ（眼／耳鼻咽喉／皮膚／口腔）	-----	47
看護の臨床判断	-----	48

健康支援と社会保障制度

医療倫理	-----	49
社会福祉	-----	50

専門分野

基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅱ（薬物療法と看護）	-----	51
基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅲ（検査と看護／放射線療法と看護／食事療法）	-----	52
基礎看護学	臨床判断と看護実践	-----	53
地域・在宅看護論	在宅看護における基本援助論	-----	55
地域・在宅看護論	家族看護論	-----	57
地域・在宅看護論	在宅看護における医療処置	-----	58
成人看護学	救急医療と看護	-----	59
成人看護学	手術療法と看護	-----	60
成人看護学	セルフマネジメントの支援	-----	61
成人看護学	緩和ケア	-----	62
成人看護学	生活行動障害と看護（呼吸機能障害／運動機能障害／肝機能障害）	---	63
老年看護学	老年看護学援助技術	-----	64
老年看護学	老年期に特有な障害と看護	-----	65
小児看護学	小児看護学援助技術	-----	66
小児看護学	小児期における健康障害	-----	67
小児看護学	小児期における看護	-----	68
母性看護学	周産期の経過／新生児の看護	-----	69
母性看護学	妊婦・産婦・褥婦の看護	-----	70
母性看護学	リプロダクティブヘルス	-----	71
精神看護学	精神障害と治療法	-----	72
精神看護学	精神障害の看護援助	-----	73
看護の統合と実践	災害看護	-----	75

3 年次履修科目

教育課程 履修科目一覧	76
授業進度表	77

専門基礎分野

健康支援と社会保障制度

地域保健論	78
関係法規	79

専門分野

看護の統合と実践 看護マネジメントと国際看護	80
看護の統合と実践 医療安全	81
看護の統合と実践 多職種連携・協働	82
看護の統合と実践 看護研究	83

講師一覧表

23 期生	84
22 期生	85
21 期生	86

シラバスの活用について

新年度開始の時期に全履修科目（臨地実習科目を除く）をまとめたシラバスを学生の皆さんに配布します。シラバスというのは、授業のねらいや内容、使用テキスト、評価方法などを明示し、授業の計画を示す文書のことをいいます。

これを冊子にして学生に事前に配布する目的は、主に以下の三点にあります。

まず**一つ目の目的**は、学生の皆さんにカリキュラムの全体像をつかんでいただくことにあります。新しい年次のスタートにあたって、これからの1年間あるいは3年間にどのような科目がどのような進度で計画され、どのような授業が行われようとしているのか、その全体的な流れや内容を見ていただきたいと思います。それにより、看護の専門職を目指す学生として長期的な学習目標・学習計画を立て、自律した学習行動を確立していって下さい。

二つ目の目的は、それぞれの科目の授業開始にあたっては、授業のねらい、進め方、使用テキストなどを事前に把握し、授業への興味・関心を高め、授業の準備、予習に十分に活用していただくことです。シラバス配布の最も重要なねらいは、学生が主体的に授業に参加することにあります。事前にテキストを読み自ら考えていく姿勢や、授業内容に集中し講師にも多くの質問をぶつけていく学習態度があるとすれば、同じ時間の学習を何倍もの成果に変えていくことができるでしょう。そのような学習にこのシラバスが活用されることを期待しています。

三つ目の目的は、シラバスは、皆さんが本校を卒業後にも必要になることがあるということです。皆さんの中には、本校卒業後、大学等へ編入・進学しようと考えている人がおられると思います。大学等に編入・進学した際には、既習単位認定の申請という手続きがあり、シラバスの提出を求められる場合があります。卒業後も必要な場合があることを認識し保管しておいて下さい。

本冊子は、年度が替わっても科目の設定意義、範囲、主要内容等について変わることはありませんが、担当講師の変更や使用テキストの変更、あるいは担当講師の授業準備の過程において授業の進め方や内容等が変更される場合があります。変更がある場合は、各講義の開始時に担当講師より資料等にて修正、説明がありますので、その内容に差し替えて保管・活用して下さい。また科目によっては、実際の授業内容に合わせてより詳細なシラバスが配布される場合もありますので、最大限に活用してください。

このシラバスが学生の皆さんの積極的な授業参加に役立つことを期待します。

2024 年 4 月

シラバスにおける実務経験の標記について（第1看護学科）

- 1-1 医師（看護師）：病院・施設にて医師（看護師）として勤務
- 1-2 医師（看護師）：病院・施設にて外科系（内科系、小児科、産婦人科等）の医師（看護師）として勤務
- 1-3 訪問看護師：病院・施設にて訪問看護師として勤務
- 2 助産師：病院にて助産師として勤務
- 3 保健師：県庁・市役所・企業にて保健師として勤務
- 4 理学療法士：病院・施設にて理学療法士として勤務
- 5 社会福祉士：地域包括支援センターにて社会福祉士として勤務
- 6 作業療法士：病院・施設にて理学療法士として勤務
- 7 精神保健福祉士：病院・施設にて精神保健福祉士として勤務
- 8 薬剤師：病院・施設にて薬剤師として勤務
- 9 管理栄養士：病院・施設にて管理栄養士として勤務
- 10 臨床検査技師：病院・施設にて臨床検査技師として勤務
- 11 介護福祉士：病院・施設にて介護福祉士として勤務

分野の考え方

基礎分野

看護は人間を対象としていることから、自己を含めて人間の心理や行動を理解し、人間が生活している社会について理解できる内容とする。そして看護の対象である人間について深く考えるとともに、国際化、情報化社会に対応する基礎的知識、さらには情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養う内容とする。また専門職業人に必要な論理的思考と科学的思考や人間関係を築くためのコミュニケーション能力を高める学習を強化し、感性を磨き、主体的な判断と行動を促す内容とする。したがって基礎分野は教育課程全体の土台であり、看護専門職に必要な人間性を養う基盤であると考ええる。

専門基礎分野

看護学の観点から人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する洞察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、微生物学、疾病論等を看護実践の基礎として学ぶ内容とする。そして看護師に必要な臨床判断能力の基盤となる力を養う内容を強化する。また人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割を学ぶ内容とする。さらに医療従事者にとって不可欠な医療倫理観を養う内容とする。したがって専門基礎分野は、看護実践を学ぶ専門分野全体の基盤であると考ええる。

専門分野

看護における重要な概念、基本看護技術、各看護学に共通する看護の考え方や方法を学ぶ内容とする。基礎看護学では、看護の基礎となる理論や技術、看護の展開方法の基礎を学び、看護師としての臨床判断能力を養う内容を強化する。地域・在宅看護論では、地域で生活する人々の暮らしの理解と地域で生活する人々の家族を理解する内容を強化する。また多職種と協働する中での看護の役割を理解する。成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の各看護学では、成長発達段階を深く理解し、様々な健康状態にある人々、及び多様な場で看護を必要とする人々に対する看護の方法を学ぶ。看護の統合と実践では、チーム医療における多職種との連携・協働を理解する内容を強化する。さらに臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ。

臨地実習では、知識・技術を看護実践の場面に適応し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う。さらに対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶことができるように強化する。また病院だけでなく、多様な場で実習を行うことで保健・医療・福祉との連携・協働を通して看護を学ぶ実習とする。

1 年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容		授 業 科 目	単位 (時間数)	区分・内容	授 業 科 目	単位 (時間数)
基礎分野	基 盤 的 思 考 の	論理学	1 (30)	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1 (30)		救急医療と看護	1 (15)
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1 (15)		手術療法と看護	1 (30)
		教育学	1 (30)		セルフマネジメントの支援	1 (30)
	人間と生活・社会の理解	文学	1 (15)		緩和ケア	1 (30)
		心理学	1 (30)		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	1 (15)
		人間関係論	1 (30)		小計	6 (150)
		社会学	1 (15)	老年看護学	老年看護学概論	1 (30)
		英語Ⅰ	2 (45)		老年看護援助技術	1 (30)
		英語Ⅱ (日常会話)	1 (15)		老年期に特有な障害と看護	2 (45)
		健康とレクリエーション体育	2 (45)		小計	4 (105)
		看護コミュニケーション論	1 (15)	小児看護学	小児看護学概論	1 (30)
	合 計		14 (315)		小児看護援助技術	1 (15)
専門基礎分野	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	人体の構造としくみ	2 (45)	母性看護学	小児期における健康障害	1 (30)
		人体の生理機能	2 (45)		小児期における看護	1 (30)
		代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2 (45)		小計	4 (105)
		疾病の成り立ち (病理学)	1 (30)	精神看護学	母性看護学概論	1 (30)
		疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1 (30)		周産期の経過/新生児の看護	1 (30)
		疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1 (30)		妊婦・産婦・褥婦の看護	1 (30)
		疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1 (30)		リプロダクティブヘルス	1 (15)
		疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1 (30)		小計	4 (105)
		疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1 (30)	看護の統合と実践	精神看護学概論	1 (30)
		疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1 (30)		精神障害と治療法	1 (30)
		疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1 (30)		精神障害の看護援助	2 (45)
		治療総論 (薬理学)	1 (30)		小計	4 (105)
		看護の臨床判断	1 (15)	臨 地 実 習	災害看護	1 (15)
	会 健 保 障 支 援 と 社	医療倫理	1 (30)		看護マネジメントと国際看護	1 (15)
		社会福祉	2 (30)		医療安全	1 (30)
		地域保健論	1 (15)		多職種連携・協働	1 (15)
		関係法規	2 (30)		看護研究	1 (15)
専門分野	合 計		22 (525)		小計	5 (90)
	基 礎 看 護 学	看護学概論	1 (30)	臨 地 実 習	基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2 (90)
		フィジカルアセスメント	1 (30)		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1 (45)
		日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)	1 (30)		基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2 (90)
		日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)	1 (30)		小計	5 (225)
		日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)	2 (90)
		診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2 (90)
		診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2 (90)
		診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2 (90)
		看護過程と看護記録	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2 (90)
		臨床判断と看護実践	2 (45)		小児看護学実習	2 (90)
		小計	11 (315)		母性看護学実習	2 (90)
	地 域 ・ 在 宅 看 護 論	地域・在宅看護論概論	1 (30)		精神看護学実習	2 (90)
		在宅看護における基本援助論	2 (45)		看護の統合実習	2 (90)
		家族看護論	1 (30)		小計	18 (810)
		地域における暮らしの理解	1 (30)	講義合計		80 (1,965)
		在宅看護における医療処置	1 (15)	実習合計		23 (1,035)
		小計	6 (150)	総 計		103 (3,000)

教育課程一覽（進度表）

23期生

教育内容		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30							
		情報科学Ⅰ（情報通信技術活用の基礎）	1	30							
		情報科学Ⅱ（情報通信技術活用法）	1	15							
	人間と生活・社会の理解	教育学	1	30							
		文学	1	15							
		心理学	1	30							
		人間関係論	1	30							
		社会学	1	15							
		英語Ⅰ	2	45							
		英語Ⅱ（日常会話）	1	15							
健康とレクリエーション体育		2	45								
看護コミュニケーション論	1	15									
合計		14	315	10(240)		4(75)					
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45							
		人体の生理機能	2	45							
		代謝栄養学（生化学/栄養学）	2	45							
		疾病の成り立ち（病理学）	1	30							
		疾病論Ⅰ（呼吸/循環）	1	30							
		疾病論Ⅱ（消化器/内分泌・代謝）	1	30							
		疾病論Ⅲ（血液造血/免疫/腎）	1	30							
		疾病論Ⅳ（脳神経/運動器）	1	30							
		疾病論Ⅴ（手術療法/泌尿器/女性生殖器）	1	30							
		疾病論Ⅵ（眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔）	1	30							
		疾病論Ⅶ（微生物学・感染症）	1	30							
		治療総論（薬理学）	1	30							
		看護の臨床判断	1	15							
	健康支援と社会保障制度	医療倫理	1	30							
		社会福祉	2	30							
		地域保健論	1	15							
		関係法規	2	30							
		合計	22	525	13(345)		6(135)		3(45)		
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30						
			フィジカルアセスメント	1	30						
			日常生活援助技術Ⅰ（生活環境/活動と休息）	1	30						
			日常生活援助技術Ⅱ（栄養と食生活/排泄）	1	30						
日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防/周手術期看護/呼吸ケア）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅱ（薬物療法と看護）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅲ（検査と看護/放射線療法と看護/食事療法）			1	30							
看護過程と看護記録			1	30							
臨床判断と看護実践			2	45							
小計		11	315	7(210)		4(105)					
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論概論	1	30							
		在宅看護における基本援助論	2	45							
		家族看護論	1	30							
		地域における暮らしの理解	1	30							
		在宅看護における医療処置	1	15							
小計		6	150	2(60)		4(90)					
成人看護学		成人看護学概論	1	30							
		救急医療と看護	1	15							
		手術療法と看護	1	30							
		セルフマネジメントの支援	1	30							
		緩和ケア	1	30							
		生活行動障害と看護（呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害）	1	15							
小計		6	150	1(30)		5(120)					
老年看護学		老年看護学概論	1	30							
		老年看護援助技術	1	30							
		老年期に特有な障害と看護	2	45							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
小児看護学		小児看護学概論	1	30							
		小児看護援助技術	1	15							
		小児期における健康障害	1	30							
		小児期における看護	1	30							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
母性看護学		母性看護学概論	1	30							
		周産期の経過/新生児の看護	1	30							
		妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30							
		リプロダクティブヘルス	1	15							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
精神看護学		精神看護学概論	1	30							
		精神障害と治療法	1	30							
		精神障害の看護援助	2	45							
		小計	4	105	1(30)		3(75)				
看護の統合と実践	災害看護	1	15								
	看護マネジメントと国際看護	1	15								
	医療安全	1	30								
	多職種連携・協働	1	15								
	看護研究	1	15								
小計		5	90			1(15)		4(75)			
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（病院での生活を理解する実習）	2	90								
	基礎看護学実習Ⅱ（日常生活援助の実習）	1	45								
	基礎看護学実習Ⅲ（看護過程を活用する実習）	2	90								
	小計	5	225	2(90)		3(135)					
	地域・在宅看護論実習Ⅰ（施設での生活を理解する実習）	2	90								
	地域・在宅看護論実習Ⅱ（在宅での療養生活を理解する実習）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅰ（あらゆる健康段階）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅱ（周手術期・急性期）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅲ（退院支援）	2	90								
	小児看護学実習	2	90								
	母性看護学実習	2	90								
	精神看護学実習	2	90								
	看護の統合実習	2	90								
小計		18	810			2(90)		16(720)			
合計		67	2160	16(510)		31(855)		20(795)			
		講義合計	80	1965	37(1005)		36(840)		7(120)		
		実習合計	23	1035	2(90)		5(225)		16(720)		
		総計	103	3000	39(1095)		41(1065)		23(840)		

分野	基礎分野	授業科目名	論理学	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 なし プリント配布	
担当講師名	篠原 駿一郎	実務経験	—		
学習目標				成績評価の方法	
看護職においては、患者や医療スタッフとの高度なコミュニケーション能力が必要とされる。この講義では、医療に関する様々な資料に触れ、それを読み取り、論点を把握し、要約し、人に伝える能力を磨くと共に、そこで問題とされているテーマについてディベートする能力も養いたいと考えている。				授業への熱意 最終テスト：100 点	
回	授 業 計 画				備 考
1	医療に関する新聞記事を読む。 新聞記事の構成と読み方を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
2	〃				
3	医療に関する雑誌記事を読む。 雑誌記事の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
4	〃				
5	医療に関する評論文を読む。 評論文の主張を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
6	〃				
7	医療に関する学術論文を読む。 学術論文を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
8	〃				
9	〃				
10	医療に関する法令文を読む。 法令文の主意を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
11	〃				
12	〃				
13	医療に関する宣言文を読む。 宣言文の理念を理解する。要約する。テーマについて議論する。				
14	〃				
15	テスト				

分野	基礎分野	授業 科目名	情報科学 I (情報通信技術活用の基礎)	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○実力養成改訂版 30 時間アカデ ミック情報リテラシー (実教出版) ○U S B	
担当 講師名	A組 日當 明男 B組 佐藤 雅紀	実務 経験	— —		
学習目標 1. 情報化社会の基本ツールの基本的操作方法を修得する。 2. 情報化社会の基本ツールの操作の学習方法を修得する。 3. ネット利用の利点と注意点を説明できる。				成績評価の方法 試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	ネットモラル。コンピュータとインターネットの基礎				
2	Word による文書作成の基礎・表の作成・図の作成①				
3	Word による文書作成の基礎・表の作成・図の作成②				
4	Word のまとめと課題				
5	Excel による文書作成の基礎				
6	数式と参照				
7	グラフの作成				
8	データベースの利用				
9	Excel のまとめと課題				
10	プレゼンテーションの目的とその構築方法				
11	PowerPoint による資料作成の基礎				
12	図やオブジェクトの利用				
13	プレゼンテーションの作成①				
14	プレゼンテーションの作成②				
15	PowerPoint のまとめと筆記試験				

分野	基礎分野	授業科目名	心理学	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 プリント類	
担当講師名	朝長 昌三	実務経験	—		
学習目標 心理学は、行動の科学とされている。行動と適応、発達、パーソナリティ等の各分野から行動を理解することをねらいとする。				成績評価の方法 各分野の終了時にテストを行い、それらをもとに総合評価する。 筆記試験：100 点	
回	授 業 計 画				備 考
1	心理学とは				
2	心理学とは				
3	行動の成立 要求の種類、フラストレーション				
4	要求水準 適応機制				
5	適応機制				
6	ビデオ 秘められた復元力				
7	発達の概念と主要理論				
8	条件付けにおける行動形成 発達の諸問題				
9	成熟と発達、発達段階 臨界期と発達課題				
10	知能とはなにか Spearman Thorndike Thurstone による分析 感情（ビデオ）				
11	知能検査（知能だけの検査） パーソナリティ				
12	パーソナリティ				
13	パーソナリティ				
14	パーソナリティの測り方				
15	試験				

分野	基礎分野	授業 科目名	人間関係論	単位	1 単位 30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 前期	テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論第 3 版 医学書院 資料：必要時配布する。	
担当 講師名	A 組 黒田 裕美	実務 経験	1-1		
学習目標 人は常に、人との関係の中で生き、成長する。人間理解と対人援助の基盤である「人間関係」について体験的に学び、人の心理や行動についての理解を深めるとともに、良好な人間関係を作るための力を身につけて欲しい。また、人間関係を学ぶことを通して、看護における援助的関わりの一助として欲しい。				成績評価の方法 ・レポート：50 点 ・筆記試験：50 点 筆記試験は 50 点満点で 60% 以上を合格とする。 2 つの合計を最終評価とする。	
回	授 業 計 画			備 考	
1	オリエンテーション 人間関係基礎論 人間関係の中の自己と他者			事前学習：テキスト pp. 4-22 を熟読してくる。	
2	人間関係基礎論 対人関係の役割			事前学習：テキスト pp. 24-40 を熟読してくる。	
3	人間関係基礎論 態度と対人行動			事前学習：テキスト pp. 42-58 を熟読してくる。	
4	人間関係基礎論 集団と個人			事前学習：テキスト pp. 60-77 を熟読してくる。	
5	人間関係を作る基礎と技法 コミュニケーション①			事前学習：テキスト pp. 82-102 を熟読してくる。	
6	人間関係を作る基礎と技法 コミュニケーション②				
7	人間関係を作る基礎と技法 カウンセリングと心理療法、コーチング			事前学習：テキスト. 104-124, 126-139 を熟読してくる。	
8	人間関係を作る基礎と技法 アサーティブ-コミュニケーション			事前学習：テキスト pp. 142-157 を熟読してくる。	
9	保健医療における人間関係 保健医療チームの人間関係			事前学習：テキスト pp. 162-181 を熟読してくる。	
10	保健医療における人間関係 患者を支える人間関係① 患者・医療者関係（看護理論にみる患者・看護師関係）			事前学習：テキスト pp. 184-191 を熟読してくる。	
11	保健医療における人間関係 患者を支える人間関係② 患者・看護師間の相互作用、クリティカルな状況の患者を支える人間関係			事前学習：テキスト pp. 191-201 を熟読してくる。	
12	保健医療における人間関係 患者を支える人間関係③ さまざまな看護場面における人間関係			事前学習：テキスト pp. 202-222 を熟読してくる。	
13	事例検討：グループディスカッション				
14	保健医療における人間関係 家族を含めた人間関係 地域を作る人間関係（ソーシャルサポート）			事前学習：テキスト pp. 224-271 を熟読してくる。	
15	まとめ・テスト			終講テストを含みます	

分野	基礎分野	授業 科目名	人間関係論	単位	1 単位 30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 前期	講義とワークで構成する。資料配布の上、プロジェクターを使用する。授業の順番が変わる場合は事前に連絡する。	
担当 講師名	B 組 長浦 由紀	実務 経験	1-1		
学習目標 (1) 自己・対人関係・集団の側面から人間関係について概論的に学ぶ。 (2) 自己及び他者理解を深め、コミュニケーションに活かす。 (3) セルフもしくはグループワークによる体験的学習で医療現場に必要なと思われるコミュニケーションが意識できるようになる。				成績評価の方法 筆記試験：60 点 レポート：40 点 詳細は、オリエンテーション時に説明する。	
回	授 業 計 画			備 考	
1	オリエンテーション 人間関係とは				
2	自己理解				
3	他者理解①				
4	他者理解②				
5	他者理解③				
6	患者と医療者①				
7	患者と医療者②				
8	コミュニケーション①				
9	コミュニケーション②グループワーク				
10	個人と集団				
11	対人行動				
12	家族と医療者				
13	チーム医療				
14	地域社会と人間関係				
15	まとめ／テスト			終講テストを含みます	

分野	基礎分野	授業 科目名	社会学	単位	1 単位 : 15 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 特に指定なし。講義資料は適宜に 配付予定。	
担当 講師名	南 誠	実務 経験	—		
- 社会学の考え方と方法の習得をととして、現代社会を理解・研究・観察するための力を身につける。 - 日々の生活に社会学的知見を活かせるようになることで、より能動的に「現代社会」を生きることができるようになる。				成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画			備 考	
1	イントロ-社会学的想像力				
2	社会を生きる-自己、家族、職業				
3	社会に組み込まれる-ジェンダー、国民とエスニック、文化				
4	社会と向き合う-グローバル社会、リスク社会				
5	現代の日本社会を考える-移動から捉え直す				
6	社会を構想する				
7	社会にかかわることの意味			ゲスト講師を招へいする予定。 なお他の日に変更する可能性もある	
8	試験 (45 分)				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	基礎分野	授業 科目名	英語 I	単位	2単位：45時間
対象 学生	1年生（23期生）	開講 時期	1年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 Medical English Clinic (センゲージラーニング株式会社)	
担当 講師名	大坪 有実	実務 経験	—		
授業のねらい・学習目標 医療現場で繰り返し広げられる対話リスニングで聞く力と対応する力を、医療関連記事の読解を通して医療英語の表現・語彙力を身に着けることをねらいとする。				成績評価の方法 定期試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	Unit 1 First Visit 初診&問診表				C D プレーヤー
2	Unit 2 At the Examination Room ノロウイルス				C D プレーヤー
3	Unit 3 Flu Symptoms インフルエンザの症状&タミフル				C D プレーヤー
4	Unit 4 Pain Problems 痛みへの対処&BSE				C D プレーヤー
5	Unit 5 Stomachache 胃痛&摂食障害				C D プレーヤー
6	Unit 6 Abdominal Pain 腹痛&ホルモン攪乱物質				C D プレーヤー
7	Unit 7 Urinalysis 尿検査&市販薬				C D プレーヤー
8	Unit 8 Cholesterol コレステロール&メタボリック症候群				C D プレーヤー
9	Unit 9 Anemia 貧血&バランスのとれた食事				C D プレーヤー
10	Unit 10 Injury 怪我&ウォーキングの効能				C D プレーヤー
11	総復習（45分）				C D プレーヤー
12	定期試験（45分）				C D プレーヤー

対象 学生	1 年生（23期生）	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 First Aid! English for Nursing (金星堂)
担当 講師名	大坪 有実	実務 経験	—	
授業のねらい・学習目標 前期に続き、医療現場で求められる会話力、医療従事者として必要となる健康問題についての知識を、英文記事を通し身につけることをねらいとする。				成績評価の方法 定期試験
回	授 業 計 画			備考
13	Unit 1 First Visit to a Hospital			C D プレーヤー
14	Unit 2 How to Fill in a Registration Form			C D プレーヤー
15	Unit 3 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities			C D プレーヤー
16	Unit 4 Mr. Brown's Symptoms			C D プレーヤー
17	Unit 5 Medical Checkup 1			C D プレーヤー
18	Unit 6 Medical Checkup 2			C D プレーヤー
19	Unit 7 Mr. Brown's Diagnosis			C D プレーヤー
20	Unit 8 Mr. Anderson's Symptoms			C D プレーヤー
21	Unit 9 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptoms			C D プレーヤー
22	Unit 10 Explaining Blood Test Results			C D プレーヤー
23	総復習（90分）			C D プレーヤー
24	定期試験（45分）			C D プレーヤー

分野	基礎分野	授業科目名	健康と レクリエーション体育	単位	2単位：45時間
対象 学生	1年生（23期生）	開講 時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 特になし 必要に応じて資料を配布	
担当 講師名	飛奈 美耶子	実務 経験	—		
授業のねらい・学習目標 運動やスポーツ、レクリエーションが健康づくりに及ぼす影響や、年齢に応じた体力の獲得方法などを講義・実技を交えて授業を行う。また、レクリエーション体育としてバドミントン・ソフトバレーといった生涯スポーツを中心とした種目を取り入れる。				成績評価の方法 出席状況、受講態度、レポート、定期試験（筆記・実技）	
回	授 業 計 画			備考（利用施設）	
1	オリエンテーション			4/26 合同（14:50～）	
2	レクリエーション①			5/10 学内体育館	
3	レクリエーション②			5/17 学内体育館	
4	健康とは何かー現代の健康問題および政策ー			5/24 合同（13:00～）	
5	運動とエネルギー			5/31 合同（13:00～）	
6	有酸素性運動がもたらす効果			6/7 合同（13:00～）	
7	スポーツ障害及び救急処置法			6/14 合同（13:00～）	
8	ソフトバレー①			6/21 市民会館	
9	ソフトバレー②			6/28 学内体育館	
10	ソフトバレー③			7/5 市民会館	
11	実技試験（ソフトバレー）			7/12 市民会館	
12	身体組成			8/30 学内実習室	
13	体力測定①			9/5 学内体育館	
14	体力測定②			9/12 学内体育館	
15	体力測定の結果解析			9/20 合同	
16	体力とトレーニング論			9/27 合同	
17	運動と栄養			10/4 合同	
18	筆記試験（45分）			10/18 合同	
19	バドミントン①			10/25 市民会館	
20	バドミントン②			11/1 市民会館	
21	バドミントン③			11/8 市民会館	
22	実技試験（バドミントン）			11/15 市民会館	
23	レクリエーション③			11/22 学内体育館	

分野	基礎分野	授業科目名	看護コミュニケーション論	単位	1 単位：15時間
対象学生	1 年生（23期生）	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看護専門 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）	
担当講師名	吉本 直子	実務経験	2		
学習目標 1. 看護の関係構築に必要なコミュニケーション技術を理解する。 2. 看護の基礎的コミュニケーション技術を習得する。 3. コミュニケーション障害がある人への対応の基礎を理解する。				成績評価の方法 授業態度 グループワーク・演習貢献度 レポート 試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	看護・医療におけるコミュニケーション				
2	関係構築のための接近的コミュニケーション				
3	看護における効果的なコミュニケーションの技術				
4	看護場面の基礎的コミュニケーション① シナリオ作成				グループワーク
5	看護場面の基礎的コミュニケーション② ロールプレイ				演習、レポート
6	アサーティブ行動の実際				レポート
7	コミュニケーション障害がある人への対応				
8	単位認定試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	専門基礎分野	授業科目名	人体の構造としくみ	単位	2単位：45時間
対象学生	1年生（23期生）	開講時期	1年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 解剖生理学：系統看護学講座、医学書院	
担当講師名	A組 戸田 一雄 B組 介田 圭	実務経験	1—2 1—2	人体模型、模擬模型、DVD、スライドを併用する。構造は <u>スケッチ学習</u> を行うので色鉛筆を用意すること。	
授業のねらい・学習目標 細胞から臓器に至る人体の構造を理解し、正常な機能を営むための生命現象を体系的に学習する。				成績評価の方法 試験 100%	
回	授 業 計 画				備 考
1	解剖学と生理学 - 人体の構造としくみの学び方、解剖学用語の基礎知識				スライド学習併用
2	人体の構成 - 階層性、細胞、組織、動物機能、植物機能				スライド学習併用
3	消化器系 - 構造：口腔、咽頭、食道、胃				消化器模型を用いる
4	消化器系 - 構造：小腸、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢				DVD学習併用
5	消化器系 - 消化のしくみー咀嚼から排便まで				スライド学習併用
6	呼吸器系 - 呼吸器の構造				DVD学習併用
7	呼吸器系 - 呼吸のしくみ、呼吸運動				DVD、スライド学習併用、 模擬呼吸模型を用いる
8	血液 - 組成、機能				DVD学習併用
9	血液 - 凝固、線溶、血液型				DVD学習併用
10	循環器系 - 心臓の構造、拍動のしくみ				心臓模型を用いる
11	循環器系 - 心電図				DVD学習併用
12	循環器系 - 動脈系、静脈系、門脈系				血管模型を用いる
13	循環器系 - 毛細血管、微小循環				DVD、スライド学習併用
14	循環器系 - 血圧調節のしくみ				DVD学習併用
15	循環器系 - リンパ				スライド学習併用
16	排泄器系 - 腎の構造				DVD, スライド学習併用
17	排泄器系 - 排尿路の構造				腎模型を用いる
18	排泄器系 - 尿生成のしくみ、体液の調節				DVD, スライド学習併用
19	自律神経系 - 構成				DVD, スライド学習併用
20	交感神経、副交感神経の機能				DVD, スライド学習併用
21	内分泌系 - ホルモンの種類と分泌腺				DVD学習併用
22.5	内分泌系 - ホルモンによる調節のしくみ				スライド学習併用

分野	専門基礎分野	授業科目名	人体の生理機能		単位	2 単位：45時間
対象学生	1 年生（23期生）	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 解剖生理学：系統看護学講座、医学書院、 人体模型、VTR、スライドを利用する。 <u>構造はスケッチ学習を行うので色鉛筆を用意すること。</u>	
担当講師名	A組 戸田 一雄 B組 介田 圭		実務経験	1—2 1—2		
授業のねらい・学習目標 人体の構造を理解したうえで、各臓器の個々の機能および統合された機能を学習する。					成績評価の方法 試験 1 0 0 %	
回	授 業 計 画				備 考	
1	骨格・筋系 - 人体の骨格、構造				骨格標本模型を用いる	
2	骨格・筋系 - 人体の骨格、体幹				骨格標本模型を用いる	
3	骨格・筋系 - 上肢、下肢				骨格標本模型を用いる	
4	骨格・筋系 - 全身の筋の構成				筋標本模型を用いる	
5	骨格・筋系 - 筋収縮のメカニズム				VTR, スライド学習併用	
6	神経系 - 興奮、伝導、伝達				VTR, スライド学習併用	
7	神経系 - 中枢神経、脳				脳標本模型を用いる。スライド、VTR, 学習併用	
8	神経系 - 統合機能				脳標本模型を用いる	
9	神経系 - 末梢神経、運動神経、感覚神経				VTR, スライド学習併用	
10	神経系 - 脳の高次機能				脳標本模型を用いる	
11	感覚系 - 視覚				眼模型を用いる	
12	感覚系 - 聴覚, 平衡覚				耳模型を用いる	
13	感覚系 - 味覚、嗅覚				鼻模型を用いる	
14	感覚系 - 痛覚				VTR, スライド学習併用	
15	皮膚 - 皮膚の構造と機能				皮膚模型を用いる	
16	体温調節				VTR, スライド学習併用	
17	免疫系 - 非特異的防御機構				VTR, スライド学習併用	
18	免疫系 - 特異的防御機構				VTR, スライド学習併用	
19	生殖器系 - 男性生殖器の構造				生殖器模型を用いる、VTR学習併用	
20	生殖器系 - 女性生殖器の構造				生殖器模型を用いる、VTR学習併用	
21	受精と発生 - 胚葉の分化				VTR, スライド学習併用	
22.5	成長と老化				VTR, スライド学習併用	

分野	専門基礎分野	授業 科目名	代謝栄養学 (生化学／栄養学)		単位	2 単位：45 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 生化学 人体の 構造と機能 2（医学書院） ○系看 専門基礎 栄養学 人体の 構造と機能 3（医学書院）	
担当 講師名	生化学：宮西 隆幸(20 時間) 栄養学：松永 知恵(25 時間)		実務 経験	1—1 9		
学習目標 1．人体を構成している物質の代謝や調節のしくみを理解する。 2．健康と栄養・食生活についての基礎的知識を理解する。					成績評価の方法 筆記テスト 生化学：50 点 栄養学：50 点	
回	授 業 計 画					備 考
生化学						
1	生体分子と水分子のつながり、細胞の構造					
2	糖質の構造と分類、脂質の構造と分類					
3	アミノ酸の構造と分類、蛋白質の構造					
4	DNA・RNAの構造、遺伝情報の伝達と遺伝子発現					
5	酵素の機能と分類、ビタミンと補酵素					
6	代謝の概要					
7	糖質の代謝 I					
8	糖質の代謝 II、ATP の産生と利用					
9	脂質の代謝、アミノ酸の代謝					
10	ヘムの代謝、ヌクレオチド代謝					
栄養学						
11	栄養と健康について、栄養素の種類と機能（糖質）					
12	栄養素の種類と機能（脂質、アミノ酸）					
13	栄養素の種類と機能（ビタミン類）					
14	栄養素の種類と機能（ミネラル類、食物繊維）					
15	消化と吸収					
16	栄養素の体内変動と代謝、栄養ケア・マネジメント					
17	ライフステージと栄養（妊娠・授乳期、乳児期）					
18	ライフステージと栄養（成長期）					
19	ライフステージと栄養（成人・高齢期）					
20	臨床栄養（栄養補給法）					
21	臨床栄養（食事療法：内分泌疾患）					
22	臨床栄養（食事療法：循環器疾患）					
23	臨床栄養（食事療法：その他疾患）					

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病論Ⅰ (呼吸／循環)		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 成人看護学(2) 呼吸器 (医学書院) ○系看 専門分野 成人看護学(3) 循環器 (医学書院)	
担当 講師名	呼 吸： (2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) 循 環： (8 時間) (8 時間)	実務 経験				
学習目標 1. 呼吸器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、 身体アセスメントの基礎的知識を習得する。 2. 循環器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、 身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 呼吸：50 点 循環：50 点	
回	授 業 計 画				備 考	
呼吸						
1	解剖、生理、症状、呼吸不全					
2	検査、治療、処置					
3	肺循環疾患、気胸、胸膜炎、過換気、SAS					
4	感染症					
5	喘息、COPD					
6	間質性肺炎					
7	癌、外傷、移植					
循環						
8	心臓の仕組みと身体所見のとり方；心臓病の臨床検査					
9	B L S と A C L S					
10	高血圧；失神					
11	急性胸痛—急性冠症候群、大動脈解離、肺塞栓症—					
12	安定型冠動脈疾患および冠動脈インターベンション ；冠動脈疾患の一次予防と二次予防					
13	その他の血管疾患、心臓弁膜症、心筋症					
14	重要な不整脈；不整脈の薬物およびデバイス治療					
15	心不全					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅱ (消化器／内分泌・代謝)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 消化器 成人看護学 5（医学書院） ○系看 専門分野 内分泌・代謝 成人看護学 6（医学書院）	
担当講師名	消 化 器：(18 時間) 内分泌・代謝：(12 時間)		実務経験			
学習目標 消化器疾患、内分泌・代謝疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 消化器：60 点 内分泌：40 点	
回	授 業 計 画					備 考
消化器						
1	第 1 章から医療の動向について 第 2 章 消化器の構造と機能					
2	第 3 章 症状とその病態生理					
3	第 4 章 検査と治療、処置とまとめ					
4	食道・胃疾患					
5	大腸疾患（1）					
6	大腸疾患（2）					
7	肝炎					
8	肝硬変、肝臓					
9	胆・膵疾患					
内分泌・代謝						
10	疾病総論、内分泌器官の構造と機能					
11	甲状腺、副甲状腺疾患、視床下部・下垂体疾患					
12	副腎疾患、性腺疾患、消化管ホルモン と腫瘍					
13	糖尿病、概念、分類、診断、治療					
14	糖尿病と慢性、急性合併症・糖尿病と妊娠					
15	高脂血症、肥満症、高尿酸血症					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅲ (血液造血／免疫／腎)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 学年（23 期生）	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 血液・造血器 成人看護学 4（医学書院） ○系看 専門分野 アレルギー・膠原病・ 感染症 成人看護学 11（医学書院） ○系看 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学 8（医学書院）	
担当講師名	血液造血：（12 時間） 免疫：（10 時間） 腎臓：（8 時間）		実務経験			
学習目標 血液・造血器・免疫、腎疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得することができる。					成績評価の方法 筆記試験 血液・造血：40 点 免疫：30 点 腎臓：30 点	
回	授 業 計 画					備 考
血液造血						
1	第 1 章 血液・造血器の医療の動向と患者の特徴 第 2 章 血液の生理と造血のしくみ					
2	第 3 章 検査・診断と症候・病態生理					
3	第 4 章 A. 赤血球の異常 B. 白血球の異常					
4	第 4 章 C. 造血器腫瘍（その 1）					
5	第 4 章 C. 造血器腫瘍（その 2）					
6	第 4 章 D. 出血性疾患					
免疫						
7	免疫のしくみとアレルギー、アレルギー疾患の検査と治療					
8	アレルギー疾患の症状と疾患の理解					
9	膠原病の医療の動向・概念、自己免疫疾患とその機序					
10	自己免疫疾患の検査と治療、自己免疫疾患の理解①					
11	自己免疫疾患の理解②					
腎臓						
12	腎疾患－症状とその病態生理－					
13	腎疾患－検査と治療－					
14	腎疾患－疾患の理解－					
15	腎疾患－疾患の理解－					

分野	専門基礎分野	授業科目名	疾病論Ⅳ (脳神経／運動器)		単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 運動器 成人看護学 10（医学書院） ○系看 専門分野 脳・神経 成人看護学 7（医学書院）	
担当講師名	脳神経： 運動器：A組 B組	(10 時間) (6 時間) (14 時間) (14 時間)	実務 経 験			
学習目標 1．脳神経疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。 2．運動器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの基礎的知識を習得する。					成績評価の方法 筆記試験 脳神経：50 点 運動器：50 点	
回	授 業 計 画					備 考
脳神経						
1	症状とその病態生理（意識障害・頭蓋内圧亢進・高次脳機能障害・言語障害・運動麻痺・感覚障害・てんかん など） ①					
2	〃 ②					
3	疾患の理解（脳梗塞）診断と治療、検査法（C T，D S A）					
4	疾患の理解：神経・筋疾患（重症筋無力症・筋ジストロフィー・筋萎縮性側硬化症・パーキンソン病 など） ①					
5	〃 ②、感染症					
6	疾患の理解（脳腫瘍）と治療・処置					
7	疾患の理解（脳内出血・クモ膜下出血）					
8	脳梗塞の診断と外科的治療、頭部外傷、感染症（脳膿瘍）					
運動器						
9	運動器の構造と機能					
10	症状とその病態生理					
11	診断・検査と治療、処置					
12	疾患の理解 骨折、脱臼、捻挫及び打撲					
13	疾患の理解 神経の損傷、筋・腱・靱帯などの損傷					
14	疾患の理解 炎症性疾患（骨髄炎、変形性関節症）					
15	疾患の理解 腰椎症（腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア） 腫瘍（骨肉腫）					

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病論Ⅴ (手術療法／泌尿器／女性生殖器)			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 臨床外科看護総論 ○系看 別巻 臨床外科看護各論 ○系看 専門分野 腎・泌尿器 成人看護学 8 (医学書院) ○系看 専門分野 女性生殖器 成人看護学 9 (医学書院)	
担当 講師名	手術療法： 泌尿器：A組 B組 B組 女性生殖器：		(2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) (2 時間) (8 時間) (4 時間) (4 時間) (10 時間)	実 務 経 験			
学習目標 1. 手術療法の基礎的知識を習得する。 2. 泌尿器、生殖器疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解し身体 アセスメントの基礎的知識を習得する。						成績評価の方法 筆記試験 手術療法 ：40 点 泌尿器 ：30 点 女性生殖器：30 点	
回	授 業 計 画					備 考	
手術療法							
1	麻酔						
2	外科総論 術後合併症						
3	各論：大腸						
4	各論：肝・胆・膵						
5	各論：乳腺						
6	各論：食道・胃						
泌尿器							
7	解剖・症状とその病態生理						
8	検査・感染症						
9	尿路障害、尿路結石、尿失禁						
10	尿路性器腫瘍、奇形						
女性生殖器							
11	女性生殖器疾患患者の症状とその病態生理						
12	診察・検査・理学的検査～遺伝子検査						
13	治療・処置						
14	疾患の理解（外陰、膣、子宮）						
15	疾患の理解（卵管、卵巣、月経異常、不妊症、避妊）						

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進（4） 微生物学 (医学書院)	
担当 講師名	有吉紅也 18 時間 12 時間	実務 経験	1—1		
学習目標 医療の高度化により、感染に対してとくに抵抗力の低下している患者の割合が増加しています。また、交通手段の発達等により、新しい感染症が次々と出現しています。これから医療に従事する皆さんにも、院内感染（医療関連感染）を広げないための知識の習得と実践が求められています。しっかりとした知識を得ることは、感染症から自分の身を守ることにもつながります。				成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画				備考
1	総論 微生物とは				
2	防御免疫 私たちはどうやって守られている？ワクチンとは？				
3	ウイルス 1 と 2				
4	ウイルス 3（HTLV-I など）				
5	細菌 1 と 2				
6	細菌 3 とその他の病原体（梅毒、リケッチア、マイコなど）				
7	真菌・原虫・プリオンなど				
8	その他とこれまでの復習				
9	HIV、性病				
1 0	結核など				
1 1	手指衛生（実習）				
1 2	手指衛生（実習）				
1 3	感染予防・・・院内感染どうやって防ぐか（看護師に求められること）				
1 4	トラベルメディスンなど、なんでも自由に面白い話を				
1 5	まとめ講義（試験の準備）				

分野	専門基礎分野	授業 科目名	治療総論 (薬理学)	単位	1 単位：30時間
対象 学生	1 年生（23期生）	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進(3) (医学書院)	
担当 講師名	14時間 8時間 4時間 4時間	実務 経験			
学習目標 薬の作用機序を理解し、薬の取り扱いに対する知識を得ること				成績評価の方法 筆記試験（定期試験、小テスト） 及び講義中の発表	
回	授 業 計 画				備考
1	薬理学総論 1 薬とは 薬力学				
2	薬理学総論 2 薬力学 薬物動態学				
3	薬理学総論3 薬物動態学				
4	末梢での神経活動に作用する薬物				
5	中枢神経系に作用する薬物1				
6	中枢神経系に作用する薬物2				
7	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物				
8	物質代謝に作用する薬物				
9	抗感染症薬				
10	抗がん薬				
11	血液に作用する薬 漢方薬				
12	循環器系に作用する薬物 1				
13	循環器系に作用する薬物 2				
14	免疫治療薬、抗アレルギー薬・抗炎症薬				
15	皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物、消毒薬				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門Ⅰ 看護学概論（医学書院） ○系看専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） ○看護覚え書（現代社） ○看護の基本となるもの 新装版（日本看護協会出版会） ○看護職の基本的責務（日本看護協会出版会） ○よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）	
担当 講師名	原田 恵	実務 経験	1—1	○看護の基本となるもの 新装版（日本看護協会出版会） ○看護職の基本的責務（日本看護協会出版会） ○よくわかる看護職の倫理綱領（照林社）	
学習目標				成績評価の方法 1) レポート（20 点） 2) 筆記試験（70 点） 3) 演習（態度、出席状況、内容）（10 点）	
1. 看護の対象である「人間とは」、「健康とは」、「家族とは」など、看護学を学ぶために必要な基本的な考え方（概念）がわかる。					
2. 看護技術を学ぶにあたり、「技術とは何か」について考えることができる。					
3. 看護の歴史や理論家の看護論を通して、看護について考えることができる。					
4. 専門的職業としての看護の役割、機能、活動について理解できる。					
5. 看護実践における研究の概略がわかる。					
6. 看護に対する考え方の素地をつくることができる。					
回	授 業 計 画			備 考	
1	看護の理念「看護師とは」・・・目指す看護師像				
2	「看護技術とは」				
3	看護の対象の理解「人間とは」「家族とは」－1			個人ワーク	
4	看護の対象の理解「人間とは」「家族とは」－2			発表	
5	健康のとらえ方「健康とは」－1			事前課題あり	
6	健康のとらえ方「健康とは」－2				
7	看護の歴史「看護とは」				
8	ナイチンゲール看護論・ヘンダーソン看護論・その他の看護論「看護とは」				
9	看護の役割と機能「看護とは」－1				
10	看護の役割と機能「看護とは」－2				
11	看護の提供のしくみ－1 看護と法制度				
12	看護の提供のしくみ－2 看護職者の教育と養成制度・キャリア開発, 看護サービス提供の場				
13	看護における倫理－1			事前課題あり	
14	看護における倫理－2				
15	看護研究の概要 まとめ				

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 フィジカルアセスメント	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看 専門分野 基礎看護学 2 基礎看護技術 I （医学書院） ○看護技術プラクティス第 3 版（学研） ○系看 専門基礎 解剖生理学(医学書院)	
担当 講師名	渡辺 美樹子	実務 経験	1—1		
学習目標					
〈身体計測〉 1．身体各部の測定の意義が理解できる。 2．身体各部の測定方法が習得できる。				成績評価の方法 ・筆記試験 ・実技評価（バイタルサイン） ・授業・校内演習への 出席状況、参加態度 ・レポート提出状況、内容	
〈フィジカルアセスメント〉 1．バイタルサインについて観察の視点から理解できる。 2．バイタルサインが正確かつ安全・安楽に測定できる。 3．測定結果を評価し、全身状態の観察・判断へつなげる意義が理解 できる。 4．聴診・触診・視診・打診の基本的技法が理解できる。					
回	授 業 計 画				備 考
1	・身体各部の計測の意義 ・身長 体重 腹囲 握力 肺活量の測定方法				
2	・身体計測演習				校内演習・レポート
3	バイタルサインとは 体温の観察 ・体温の基礎知識（生理）				
4	・体温測定の基礎知識 体温測定 観察 記録 報告 ・体温異常時の看護：電法他				
5	・電法 他				
6	循環の観察（解剖生理） ・脈拍測定 観察 記録 報告				
7	・聴診器の取り扱い ・脈拍 心拍の測定 観察 報告				
8	・血圧測定の基礎知識 ・血圧計の仕組み 取り扱い				
9	・血圧測定（触診法 聴診法）観察 記録 報告				
10	呼吸の観察 ・呼吸の測定 観察 記録 報告				
11	・呼吸音の聴取 パルスオキシメーターでの測定 記録 報告				
12	聴診 触診 視診 打診などによる観察と情報収集 記録 腹部の観察 ・腸蠕動音の聴取 腹部膨満の観察 関節可動域（ROM）と徒手筋力測定（MMT）				
13	・バイタルサイン測定演習				校内演習・レポート
14					
15	・演習のふりかえり ・意識レベルの観察 記録 報告 ・フィジカルアセスメントまとめ				

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 日常生活援助技術Ⅰ (生活環境／活動と休息)			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護学技術Ⅱ (医学書院) ○看護技術プラクティス (学研)	
担当 講師名	生活環境： 野中 由香 活動と休息： 川根 明日美	14 時間 16 時間	実務 経験	1—1 1—1			
学習目標						成績評価の方法	
＜生活環境＞ 1. 健康生活における環境調整の必要性について説明できる。 2. 生活環境をととのえるためのアセスメントの視点が説明できる。 3. ベッドメイキング・臥床患者のシーツ交換を援助の根拠をふまえて実施できる。						・筆記試験 生活環境：50点 活動と休息：50点	
＜活動と休息＞ 1. ボディメカニクスの原理・原則を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 休息・睡眠の意義を理解し、睡眠・休息を促すための援助方法が理解できる。 3. 活動・休息が心身に与える影響を理解できる。						・実技試験 (臥床患者のリネン交換) ・校内演習 *出席状況、参加態度など ・課題・校内演習後レポート	
回	授 業 計 画					備 考	
生活環境							
1	・「環境」とは ・「療養の場として望ましい生活環境」とは						
2	・病室内環境のアセスメントと調整					校内演習	
3	・快適な病床環境の理解 1) 病室内環境の構成因子 2) 病床を整える条件 ・療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備					グループワーク発表	
4	・療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備のポイントと実施上の留意点 2) ベッド周囲の環境整備の実際					課題 校内演習	
5	・病床の環境調整技術 1) ベッドメイキングのポイントと実施上の留意点 2) ベッドメイキングの実際						
6	・療養環境の整備 1) 臥床患者のリネン交換のポイントと実施上の留意点					課題 校内演習	
7	2) 臥床患者のリネン交換の実際						
活動と休息							
1	・ボディメカニクス、よい姿勢、体位の特徴 (基本肢位、特殊肢位) ・人間の自然な立ち上がり動作の分析						
2	・移動援助の基礎理論 1) 車椅子移動 2) ストレッチャー移動					グループワーク	
3	・ボディメカニクスの活用 ・人間の自然な動きと援助の活用 1) 仰臥位から側臥位 2) 仰臥位から端坐位 3) 車いす移乗					DVD	
4	・移動援助の基礎理論とその実際 1) 歩行介助 2) 車椅子移乗					校内演習	
5	・体位変換、移動と移送 1) 床上での水平移動 (上下・左右)、体位変換					校内演習	
6	2) 車椅子への移乗・移送 3) ストレッチャーへの移乗・移送 4) ファウラー位 (背抜き)						
7	・活動と休息とは ・不活動状態が身体に及ぼす影響を考える						
8	・休息・睡眠に関する基礎知識 ・休息・睡眠の意義と援助の実際						

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活／排泄)			単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ○看護技術プラクティス（学研）	
担当講師名	栄養と食生活：田原えりか 排 泄：岳口 亜樹	12 時間 18 時間	実務経験	1—2 1—1			
学習目標 1. 栄養と食生活の意義を理解し、基礎的知識・技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、基礎的知識・技術を習得する。						成績評価の方法 栄養と食生活：筆記試験（40 点） 排泄：筆記試験（60 点） 校内演習 ＊出席状況、参加態度、提出物など	
回	授 業 計 画					備 考	
栄養と食生活							
1	食事の意義、食欲と食行動、消化・吸収・排泄機構、わが国の食に関する対策						
2	栄養状態のアセスメント、食欲、摂取能力のアセスメント、食生活変更のアセスメント						
3	非経口的栄養摂取（経管栄養法 経静脈栄養法）						
4	食事の介助						
5	食事介助の実際、経管栄養法 演習					校内演習（食事介助・経管栄養法）・レポート ≪関連科目≫ 日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）：口腔ケアの実際	
6	医療施設における食事、摂食・嚥下訓練、食事に関する事故						
排泄							
7	・排泄の意義と機序、排尿・排便のアセスメント ・トイレにおける排泄介助、ポータブルトイレでの排泄介助						
8	・床上排泄援助の理解（便・尿器の介助、おむつ交換の介助）						
9	・床上での排泄援助の検討（演習） ～尿器を使用した排泄援助について考える～					校内演習	
10 11	・校内演習：床上排泄援助の実際 1）排泄介助（便器の介助、おむつ交換の介助） 2）臥床患者の排泄援助（陰部洗浄も含む）					校内演習 ≪関連科目≫ 日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）：陰部洗浄	
12	・排便障害時の看護 排便に関する排泄器官の機能とメカニズム、観察とアセスメント 排便を促す援助（便秘改善の援助、浣腸、摘便）						
13	・排尿障害時の看護 排尿に関する排泄器官の機能とメカニズム、観察とアセスメント 導尿（一時的導尿・持続的導尿）						
14 15	・校内演習：排泄を障害された人への援助の実際 1）グリセリン浣腸 2）一時的導尿					校内演習 ≪関連科目≫ 診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防）：無菌操作	

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生 (23 期生)	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 基礎看護学3 基礎看護学技術Ⅱ (医学書院) ○医療安全と感染管理をふまえた 看護技術プラクティス (学研)	
担当 講師名	深松 亜紀子	実務 経験	1—1		
学習目標				成績評価の方法 筆記試験 (80 点) } 100 点 レポート (20 点) } 実技試験 (全身清拭と寝衣交換) … 60 点以上 校内演習参加度 *出席状況、演習態度、提出物など	
1.	看護における身体の清潔・衣生活の意義と援助の必要性が理解できる。				
2.	身体各部の清潔援助方法を理解し、基本的な援助技術を習得する。				
回	授 業 計 画			備 考	
1	・清潔・衣生活の意義、皮膚・粘膜の構造と機能 ・健康および健康を障害された人の清潔			夏季休暇課題 全身清拭・寝衣交換の『行動と根拠』	
2	・全身清拭に必要な基礎知識 ・清拭のもたらす効果、全身清拭実施上の留意点				
3	・衣生活に必要な基礎知識 ・病衣の選択と条件に応じた衣類の交換 ・臥床患者の安全・安楽な寝衣交換を考える。			事前演習 (臥床患者の寝衣交換)	
4 5	・全身清拭・寝衣交換の援助 ・臥床安静患者、安全・安楽・自立に配慮した援助			校内演習・レポート 実技試験 (3 月)	
6	・粘膜の清潔に必要な基礎知識 ・口腔ケアのニーズ、援助の必要性および方法 ・陰部ケアのニーズ、援助の必要性および方法			課題：口腔ケアの『行動と根拠』・レポート 《関連科目》 日常生活援助技術Ⅱ (排泄) : おむつ交換の校内演習で陰部洗浄の実際を体験する。	
7	・部分浴に必要な基礎知識・援助の留意点 ・手浴・足浴の援助の理解			課題：足浴の『行動と根拠』	
8 9	・臥床患者の足浴 1) 足浴の基本動作の理解 2) 状況に応じた足浴 (体位、皮膚の状態)			校内演習・レポート	
10	・入浴・シャワー浴に必要な基礎知識 ・入浴に伴う危険とその要因、入浴・シャワー浴実施上の留意点				
11	・入浴・シャワー浴の援助			校内演習・レポート	
12	・頭皮・頭髪の清潔に必要な基礎知識				
13	・ケリーパッド洗髪の『行動と根拠』の検証 ・各種洗髪法の実際 (器具の特徴と実施上の留意点)			事前演習 (ケリーパッド洗髪) ケリーパッド洗髪の『行動と根拠』	
14 15	・臥床患者のケリーパッド洗髪の実際 1) 洗髪の基本動作の理解 2) ケリーパッドを使用した効果的な洗髪			校内演習・レポート	

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材 ○系看 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学技術Ⅰ（医学書院） ○系看 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学技術Ⅱ（医学書院） ○看護技術プラクティス（学研） ○系看 別巻 臨床外科総論 （医学書院）	
担当 講師名	感染予防： 野中 由香 4 時間	実務 経験	1—1		成績評価の方法 筆記試験、レポート、出席状況、 授業態度、校内演習態度など 配点 感染予防 40 点（ 10 30） 周手術期看護 40 点 呼吸ケア 20 点	
	8 時間					
	周手術期看護：野中 由香 12 時間		1—1			
	呼吸ケア：西村 松美 6 時間		1—1			
学習目標 〈感染予防〉 1. 感染予防のための基本的知識が理解できる。 2. 感染予防のための基本的技術（手洗い、個人防護具の着脱、無菌操作）を習得する。 〈周手術期看護〉 1. 手術を受ける患者・家族の特徴を理解する。 2. 周手術期における看護の役割を理解すると共に、必要な基礎的知識・技術を習得する。 〈呼吸ケア〉 1. 酸素療法の意義と酸素療法を必要とする対象の援助が理解できる。 2. 吸引の目的と方法を理解し、その援助の実際を学ぶ。						
回	授 業 計 画					備 考
感染予防						
1	感染予防のための基礎知識 感染予防における看護師の責務と役割 1) 感染とは 2) 現代における感染の問題 3) 院内感染とは 4) 感染予防の意義 5) 感染予防に対する考え方					
2	感染予防のための基礎知識 6) 感染成立の 3 要素 7) 標準予防策（スタンダードプリコーション）と感染経路別 予防策					
3	感染予防のための基礎知識 滅菌、消毒、洗浄について（滅菌物の管理、インジケータ、消毒薬）					
4	感染予防のための基本的技術の実際					演習
5	1) 手洗い 2) 個人防護具（PPE）の着脱 3) 無菌操作 4) 滅菌手袋の着脱					
6	感染予防のための基礎知識 感染性廃棄物の取り扱い 針刺し事故防止策					
周手術期看護						
7	手術療法とは 周手術期の看護：手術前の患者の看護					
8	周手術期の看護：手術中の看護 ME 機器と看護					
9	周手術期の看護：手術による身体侵襲と術後合併症					
10	周手術期の看護：手術後の患者の看護					
11	周手術期に必要な看護技術：創傷処置、包帯法、ドレーン管理					
12	周手術期に必要な看護技術の実際 校内演習 1) 創傷処置 包帯法（腹帯、三角巾） 2) ドレーン管理					演習
呼吸ケア						
13	酸素療法について					
14	吸引（一時的吸引：口腔・鼻腔・気管内吸引・持続吸引）について					
15	酸素療法及び一時的吸引の実際 校内演習					演習

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 看護過程と看護記録	単位	1 単位：30時間
対象 学生	1 年生 (23期生)	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) ○事例でわかる看護理論を看護過程に いかす本 (昭林社) ○検査値早わかりガイド (医学芸術社) ○看護診断ハンドブック (医学書院) ○疾患別看護過程の展開 (学研) ○今日の治療薬 (南江堂)	
担当 講師名	原田 恵	実務 経験	1—1		
学習目標 1. 問題解決過程やクリティカルシンキングなどの看護過程の 基盤となる考え方について理解する。 2. 看護過程を構成する5つの段階を理解する。 3. 事例を通して、看護過程の基礎を理解する。 4. 看護記録の目的や留意点、構成について理解する。				成績評価の方法 筆記試験 (60点) レポート (30点) 学習への取り組み (10点)	
回	授 業 計 画				備 考
1	看護過程とは				
2	看護過程の基盤となる考え方 ①問題解決過程②クリティカルシンキング ③倫理的配慮と価値判断④リフレクション				
3	看護過程の各段階 ①アセスメント (情報の収集)				
4	看護過程の各段階 ①アセスメント (分析)				課題あり
5	看護過程の各段階 ②看護問題の明確化 (看護診断・共同問題)				
6	看護過程の各段階 ③看護計画				
7	看護過程の各段階 ④実施 ⑤評価				
8	看護理論と看護過程 (ヘンダーソン、ロイ、オレム、ゴードン、NANDA)				
9	胃潰瘍事例のアセスメント				課題あり グループワーク・発表
10	胃潰瘍事例の看護問題の明確化 (看護診断・共同問題)				グループワーク・発表
11	胃潰瘍事例の関連図				グループワーク・発表
12	胃潰瘍事例の看護計画				課題あり グループワーク・発表
13	肺炎患者の看護過程				冬季課題あり
14	肺炎患者の看護過程まとめ				共有学習
15	看護記録				

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 地域・在宅看護論概論	単位	1 単位：30時間
対象学生	1年生（23期生）	開講時期	1年次 後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	靄岡 イツ子	実務経験	1 - 1	○系看護地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)	
授業の目標 1. 地域・在宅看護の意義を理解し、看護師の役割が考えられる。 2. 在宅看護の変遷・制度と地域ケアについて理解する。 3. 在宅における看護師の法律上の責任を理解する。 4. 地域・在宅看護の対象である療養者・家族と在宅看護の場を理解する。				成績評価の方法 筆記試験 100 点 出席状況・授業態度	
回	授 業 計 画				備 考
1	地域・在宅看護の目的と特徴（なぜ生活を重視するのか）				
2	地域・在宅看護の対象（家族・療養者）				
3	地域と暮らしを支える看護と看護が提供される多様な場				
4	家族のとらえ方と看護師のかかわり				
5	地域・在宅看護の基本となるもの				
6	訪問看護師に求められる基本姿勢				
7	在宅看護の変遷および制度①				
8	在宅看護の変遷および制度②				
9	在宅看護での看護過程展開				
10	継続看護、在宅ケアを支える条件・社会資源（他職種との連携）				
11	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント①				
12	地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメント②				
13	在宅看護における安全性の確保				
14	在宅療養者の権利（自己決定と権利擁護）				
15	在宅看護の基本技術				

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護論 地域における暮らしの理解	単 位	1単位:30時間
対象 学生	1年生(23期生)	開講 時期	1年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当 講師名	樋口 香織 26時間 2時間 2時間	実務 経験	1—1	○系看 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1(医学書院)	
授業の目標 1. 暮らしということを理解する。 2. 支えあって生きるということを理解する。 3. 地域の生活環境を理解することができる。				成績評価の方法 課題提出 フィールドワークレポート グループワーク・授業参加状況	
回	授 業 計 画				備 考
1	人々の暮らしの理解				
2	地域・在宅看護の役割				
3	暮らしを理解する				事前課題あり
4	暮らしと地域				
5	地域包括ケアシステムと地域共生社会				
6	地域マップ作成へのオリエンテーション、計画				
7 8	フィールドワーク				長崎市各地域へ
9	地域マップ作成				
10	地域マップ作成				
11	地域マップ グループ発表会				
12	長崎市の暮らしを支える活動① ～長崎市包括ケアまちなかラウンジ～				
13	長崎市の暮らしを支える活動② ～長崎市社会福祉協議会～				
14	長崎市の暮らしを支える活動 グループ発表準備				
15	長崎市の暮らしを支える活動 グループ発表				

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 成人看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	2 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 成人看護学 (1)成人看護学総論（医学書 院） ○国民衛生の動向 2024/2025	
担当 講師名	A組：本多 麻友美 B組：岳口 亜樹	実務 経験	1—1 1—1		
授業のねらい・学習目標 1. 成人各期にある対象の身体・精神・社会的特徴をライフサイクル・ 発達課題・保健の動向を通して理解する。 2. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。				成績評価の方法 ・筆記試験 ・グループワーク ・授業への参加状況	
回	授 業 計 画				備 考
1	成人の理解 1) 成人とは 2) 生涯発達からみた大人 3) ライフサイクルの区分 4) 成人期の区分				
2	成人各期の特徴、発達課題について				
3	成人各期の健康（生活、仕事、健康問題、社会背景） ・グループワークの発表は、以降の講義で行う				グループ ワーク
4					
5	成人の生活 1) 生活について 2) 生活環境について 3) 仕事について 4) 成人各期における生活の特徴				
6	成人保健と今日の健康動向 1) 人口構成 2) 平均寿命と健康寿命 3) 受療状況 4) ヘルスプロモーション				
7	成人の健康Ⅰ 1) 健康の定義 2) 大人の健康 3) 健康観 4) 保健行動				
8	成人の健康Ⅱ 1) 日常生活の状況 2) 成人の健康状況 3) 成人各期の健康問題				
9	成人にみられる健康障害Ⅰ 生活習慣病とその予防				
10	成人にみられる健康障害Ⅱ 1) 就業、労働形態 2) 身体不活動 3) 飲酒 4) 喫煙				
11					
12	成人にみられる健康障害Ⅲ 1) 生活ストレス 2) ストレスと健康障害 3) ストレスコーピング				
13	成人の健康行動を生みはぐくむ援助Ⅰ 1) 成人教育学（アンドラゴジー） 2) エンパワーメント教育				
14	成人の健康行動を生みはぐくむ援助Ⅱ 1) セルフケア				
15					

分野	専門分野	授業科目名	老年看護学 老年看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 老年看護学 （医学書院）	
担当講師名	本多 麻友美	実務経験	1—1		
学習目標 1．老年期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2．社会構造の変化や人口の高齢化に伴う保健医療福祉の役割とそのシステムを理解する。 3．老年看護の基本となる考え方を学ぶ。				成績評価の方法 レポート、筆記試験、出席状況 授業態度など	
回	授 業 計 画				備 考
1	老年期とは・老年看護のなりたち				
2	高齢社会の統計的輪郭				
3	老年者疑似体験オリエンテーション、体験内容の計画立案				グループワーク
4	高齢者の生活疑似体験				演習
5	〃				演習
6	高齢者体験の気づきの共有、身体の高齢変化とアセスメント				グループワーク
7	身体の高齢変化とアセスメント				グループワーク
8	高齢に伴う心理的・社会的側面の変化				グループワーク
9	〃				グループワーク
10	高齢社会における保健医療福祉の動向				
11	介護保険システムについて（介護保険制度のしくみ）				
12	退院支援・退院調整（フレイル）				
13	高齢社会における権利擁護（高齢者虐待、成年後見制度）				
14	〃（身体への拘束）				
15	老年看護のめざすもの（多職種連携、意思決定支援など）				

分野	専門分野	授業科目名	小児看護学 小児看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象学生	1 年生（23 期生）	開講時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護 専門分野 小児看護学 1 小児概論・臨床総論（医学書院）	
担当講師名	田原 えりか	実務経験	1—2	○国民衛生の動向	
授業のねらい・学習目標 1. 小児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解する。 2. 小児を取り巻く環境（地域）と現状を理解するとともに、小児看護の役割について理解する。 3. 小児の成長発達に応じた養育および看護について理解する。 4. 小児期にある対象に関心を持ち、小児看護に対する自分の考え（子ども観）を養うことができる。				成績評価の方法 筆記試験 レポート 出席状況・授業態度	
回	授 業 計 画				備 考
1	『小児看護の対象』について				グループワーク発表
2	・小児看護の対象 ・小児看護の役割 ・小児医療 ・小児看護の変遷と動向				
3	『子どもの人権と看護』について				グループワーク発表
4	子どもの人権と看護				
5	『地域で暮らす子どもを取り巻く環境』（社会、家族）について				新聞記事レポート グループワーク
6	統計から見た子どもの健康				
7	法律と政策				
8	『地域で暮らす子どもを取り巻く環境』（社会、家族）について				グループワーク発表
9	・成長・発達の原則 ・形態的成長発達				
10	・機能的成長				
11	・心理、社会的発達 ・発達の評価				
12	『小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について』				グループワーク
13	『小児の発達に伴う生活行動の変化と日常生活の支援について』				グループワーク発表
14	発達段階に応じた成長・発達における生活への支援				
15	発達段階に応じた成長・発達における生活への支援				

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学 母性看護学概論	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	1 年生（23 期生）	開講 時期	1 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論（医学書院） ○国民衛生の動向	
担当 講師名	吉本 直子	実務 経験	2		
学習目標 ・母性看護の基盤となる概念を学び、母性看護における健康とは何か考える。 ・母子保健施策や統計から母性看護の対象を取り巻く特徴を理解する。 ・性と生殖の視点でライフステージ各期における健康問題について考え、母性看護の役割を理解する。				評価の方法 筆記試験 グループワーク、レポート 授業態度	
回	授 業 計 画				備 考
1	母性看護の基盤となる概念① 母性看護とは				
2	母性看護の基盤となる概念② セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス				
3	リプロダクティブヘルスケア 性感染症とその予防				
4	リプロダクティブヘルスケア 家族計画				
5	リプロダクティブヘルスケア 人工妊娠中絶と看護				
6	母子保健統計からみた動向				国民衛生の動向
7	母性看護に関する法律				
8	母子保健施策からみた現状				国民衛生の動向
9	母性看護の倫理と役割				
10	ライフステージ各期における看護について				グループワーク
11	ライフステージ各期における看護について				グループワーク
12	ライフステージ各期における看護 乳幼児期・学童期の健康と看護				グループワーク 発表
13	ライフステージ各期における看護 思春期の健康と看護				グループワーク 発表
14	ライフステージ各期における看護 成熟期の健康と看護				グループワーク 発表
15	ライフステージ各期における看護 更年期・老年期の健康と看護				グループワーク 発表

分野	専門分野	授業科目名	精神看護学 精神看護学概論	単位	1 単位：30時間
対象学生	1年生（23期生）	開講時期	1 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看専門分野 精神看護学1 精神看護の基礎（医学書院） ○系看専門分野 精神看護学2 精神看護の展開（医学書院）	
担当講師名	川根 明日美	実務経験	1—2		
授業のねらい・学習目標 1. 精神看護の基本的な考え方について理解することができる。 2. 精神保健及び精神障害者福祉の変遷を、歴史的・社会的・医療的見地から理解することができる。				成績評価の方法 提出物、GW、試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	この授業のめざすもの 精神看護学とは 精神の健康とは				
2	人間のこころのはたらき ①				
3	人間のこころのはたらき ②				
4	ストレスとコーピング・危機と危機介入				
5	家族とこころの健康～社会的側面から理解する～				
6	ライフサイクルと精神保健① 胎児期～学童期の発達の危機				GW発表
7	ライフサイクルと精神保健② 思春期～成人期				〃
8	ライフサイクルと精神保健③ 中年期～老年期				〃
9	様々な社会精神病理① 依存症				〃
10	様々な社会精神病理② 犯罪・非行・虐待・暴力・いじめ・DV				〃
11	様々な社会精神病理③ 自殺と自殺予防・PTSD				〃
12	様々な社会精神病理④ 災害と精神看護				〃
13	精神障害者 その処遇と歴史				
14	精神障害と法制度①				
15	精神障害と法制度② リエゾン精神看護				

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容				区分・内容			
授 業 科 目		単位 (時間数)		授 業 科 目		単位 (時間数)	
基礎分野	基 盤 学 的 思 考 の	論理学	1 (30)	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)	
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1 (30)		救急医療と看護	1 (15)	
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1 (15)		手術療法と看護	1 (30)	
		教育学	1 (30)		セルフマネジメントの支援	1 (30)	
	人 間 と 生 活 ・ 社 会 の 理 解	文学	1 (15)		緩和ケア	1 (30)	
		心理学	1 (30)		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	1 (15)	
		人間関係論	1 (30)		小計	6 (150)	
		社会学	1 (15)	老年看護学	老年看護学概論	1 (30)	
		英語Ⅰ	2 (45)		老年看護援助技術	1 (30)	
		英語Ⅱ (日常会話)	1 (15)		老年期に特有な障害と看護	2 (45)	
		健康とレクリエーション体育	2 (45)		小計	4 (105)	
		看護コミュニケーション論	1 (15)	小児看護学	小児看護学概論	1 (30)	
	合 計		14 (315)		小児看護援助技術	1 (15)	
専門基礎分野	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	人体の構造としくみ	2 (45)	母性看護学	小児期における健康障害	1 (30)	
		人体の生理機能	2 (45)		小児期における看護	1 (30)	
		代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2 (45)		小計	4 (105)	
		疾病の成り立ち (病理学)	1 (30)	精神看護学	母性看護学概論	1 (30)	
		疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1 (30)		周産期の経過/新生児の看護	1 (30)	
		疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1 (30)		妊婦・産婦・褥婦の看護	1 (30)	
		疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1 (30)		リプロダクティブヘルス	1 (15)	
		疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1 (30)		小計	4 (105)	
		疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1 (30)	看護の統合と実践	精神看護学概論	1 (30)	
		疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1 (30)		精神障害と治療法	1 (30)	
		疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1 (30)		精神障害の看護援助	2 (45)	
		治療総論 (薬理学)	1 (30)		小計	4 (105)	
	会 健 康 支 援 と 社 会	看護の臨床判断	1 (15)	臨 地 実 習	災害看護	1 (15)	
		医療倫理	1 (30)		看護マネジメントと国際看護	1 (15)	
		社会福祉	2 (30)		医療安全	1 (30)	
		地域保健論	1 (15)		多職種連携・協働	1 (15)	
		関係法規	2 (30)		看護研究	1 (15)	
	合 計		22 (525)		小計	5 (90)	
専門分野	基 礎 看 護 学	看護学概論	1 (30)		基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2 (90)	
		フィジカルアセスメント	1 (30)		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1 (45)	
		日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)	1 (30)		基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2 (90)	
		日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)	1 (30)		小計	5 (225)	
		日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2 (90)	
		看護過程と看護記録	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2 (90)	
		臨床判断と看護実践	2 (45)		小児看護学実習	2 (90)	
		小計	11 (315)		母性看護学実習	2 (90)	
	地 域 ・ 在 宅 看 護 論	地域・在宅看護論概論	1 (30)		精神看護学実習	2 (90)	
		在宅看護における基本援助論	2 (45)		看護の統合実習	2 (90)	
		家族看護論	1 (30)		小計	18 (810)	
		地域における暮らしの理解	1 (30)	講義合計			80 (1,965)
		在宅看護における医療処置	1 (15)	実習合計			23 (1,035)
		小計	6 (150)	総 計			103 (3,000)

2 年次履修科目

基礎分野

専門基礎分野

専門分野

教育課程一覧（進度表）

22期生

教育内容		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30							
		情報科学Ⅰ（情報通信技術活用の基礎）	1	30							
		情報科学Ⅱ（情報通信技術活用法）	1	15							
		教育学	1	30							
	人間と生活・社会の理解	文学	1	15							
		心理学	1	30							
		人間関係論	1	30							
		社会学	1	15							
		英語Ⅰ	2	45							
		英語Ⅱ（日常会話）	1	15							
		健康とレクリエーション体育	2	45							
看護コミュニケーション論		1	15								
合計		14	315	10(240)		4(75)					
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45							
		人体の生理機能	2	45							
		代謝栄養学（生化学/栄養学）	2	45							
		疾病の成り立ち（病理学）	1	30							
		疾病論Ⅰ（呼吸/循環）	1	30							
		疾病論Ⅱ（消化器/内分泌・代謝）	1	30							
		疾病論Ⅲ（血液造血/免疫/腎）	1	30							
		疾病論Ⅳ（脳神経/運動器）	1	30							
		疾病論Ⅴ（手術療法/泌尿器/女性生殖器）	1	30							
		疾病論Ⅵ（眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔）	1	30							
		疾病論Ⅶ（微生物学・感染症）	1	30							
		治療総論（薬理学）	1	30							
		看護の臨床判断	1	15							
		健康支援と社会保障制度	医療倫理	1	30						
	社会福祉		2	30							
	地域保健論		1	15							
	関係法規		2	30							
	合計		22	525	13(345)		6(135)		3(45)		
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30						
			フィジカルアセスメント	1	30						
			日常生活援助技術Ⅰ（生活環境/活動と休息）	1	30						
			日常生活援助技術Ⅱ（栄養と食生活/排泄）	1	30						
日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防/周手術期看護/呼吸ケア）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅱ（薬物療法と看護）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅲ（検査と看護/放射線療法と看護/食事療法）			1	30							
看護過程と看護記録			1	30							
臨床判断と看護実践			2	45							
小計		11	315	7(210)		4(105)					
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論概論	1	30							
		在宅看護における基本援助論	2	45							
		家族看護論	1	30							
		地域における暮らしの理解	1	30							
		在宅看護における医療処置	1	15							
小計		6	150	2(60)		4(90)					
成人看護学		成人看護学概論	1	30							
		救急医療と看護	1	15							
		手術療法と看護	1	30							
		セルフマネジメントの支援	1	30							
		緩和ケア	1	30							
		生活行動障害と看護（呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害）	1	15							
小計		6	150	1(30)		5(120)					
老年看護学		老年看護学概論	1	30							
		老年看護援助技術	1	30							
		老年期に特有な障害と看護	2	45							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
小児看護学		小児看護学概論	1	30							
		小児看護援助技術	1	15							
		小児期における健康障害	1	30							
		小児期における看護	1	30							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
母性看護学		母性看護学概論	1	30							
		周産期の経過/新生児の看護	1	30							
		妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30							
		リプロダクティブヘルス	1	15							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
精神看護学		精神看護学概論	1	30							
		精神障害と治療法	1	30							
		精神障害の看護援助	2	45							
		小計	4	105	1(30)		3(75)				
看護の統合と実践	災害看護	1	15								
	看護マネジメントと国際看護	1	15								
	医療安全	1	30								
	多職種連携・協働	1	15								
	看護研究	1	15								
	小計	5	90			1(15)		4(75)			
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（病院での生活を理解する実習）	2	90								
	基礎看護学実習Ⅱ（日常生活援助の実習）	1	45								
	基礎看護学実習Ⅲ（看護過程を活用する実習）	2	90								
	小計	5	225	2(90)		3(135)					
	地域・在宅看護論実習Ⅰ（施設での生活を理解する実習）	2	90								
	地域・在宅看護論実習Ⅱ（在宅での療養生活を理解する実習）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅰ（あらゆる健康段階）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅱ（周手術期・急性期）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅲ（退院支援）	2	90								
	小児看護学実習	2	90								
	母性看護学実習	2	90								
	精神看護学実習	2	90								
	看護の統合実習	2	90								
	小計		18	810			2(90)		16(720)		
合計		67	2160	16(510)		31(855)		20(795)			
講義合計			80	1965	37(1005)		36(840)		7(120)		
実習合計			23	1035	2(90)		5(225)		16(720)		
総計			103	3000	39(1095)		41(1065)		23(840)		

分野	基礎分野	授業科目名	情報科学Ⅱ (情報通信技術活用方法)	単位	1 単位：15 時間
対象学生	2 年生 (22 期生)	開講時期	2 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○医学書院 系統看護学講座 別巻 看護情報学	
担当講師名	田中 準一	実務経験	1-1		
学習目標				成績評価の方法	
1. 「情報」と「コミュニケーション」の特徴が説明できる 2. 個人情報利用と保護、情報セキュリティについて説明できる 3. 患者が情報に基づいて意思決定するための支援方法が説明できる 4. 信頼できる情報の見分け方について説明できる 5. 情報通信技術を活用することができる				● 授業後のレポート（第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 8 回） ● プレゼンテーションの評価	
回	授 業 計 画			備 考	
1	情報とは何か（情報の定義と特徴、社会と情報）			DVD 視聴【映像で考える！看護のための情報リテラシー】 ・ソーシャルメディアの上手な活用について考えよう	
2	情報のいかし方（保健医療と情報、看護と情報、医療情報システム）			DVD 視聴【映像で考える！看護のための情報リテラシー】 ・ソーシャルメディアのトラブルについて考えよう	
3	情報の守り方（情報と倫理、患者の権利と情報、個人情報の保護）			DVD 視聴【映像で考える！看護のための情報リテラシー】 ・健康医療情報と患者支援について考えよう	
4	情報モラルに関して①（情報収集方法、課題提示）			※情報処理室を使用	
5	情報モラルに関して②（情報収集・プレゼンテーション作成）			※情報処理室を使用	
6	情報モラルに関して③（情報収集・プレゼンテーション作成）			※情報処理室を使用	
7	発表・まとめ				
8	ヘルスリテラシー				

分野	基礎分野	授業 科目名	教育学	単位	1単位:30 時間
対象 学生	2 年生(22 期生)	開講 時期	2 年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 毎回、手作りの資料を配布する。 参考書は、その都度紹介する。	
担当 講師名	山岸 利次	実務 経験	—		
学習目標				成績評価の方法	
回	授 業 計 画			備考	
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	基礎分野	授業科目名	文学	単位	1単位:15時間
対象学生	2年生(22期生)	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ・毎回印刷資料を配布します ・参考書はその都度紹介します	
担当講師名	中島 貴奈	実務経験	—		
授業のねらい・学習目標 近現代の文学作品を読み、ことばを介して作品中の他者の心情を理解することを通じて自分自身及び身近な他者への理解を深め、ことばで表現することを目指す。				成績評価の方法 ・授業の出席状況・参加態度、及び提出シート(40%) ・最終試験(60%)	
回	授 業 計 画				備考
1	看護学校で「文学」を学ぶことについて-研究とエッセイから				
2	看護師が語り手の「文学」作品①-朝井リョウの小説				
3	看護師が語り手の「文学」作品②-朝井リョウの小説				
4	看護師が語り手の「文学」作品③-朝井リョウの小説				
5	患者が語り手の「文学」作品①-太宰治の小説				
6	患者が語り手の「文学」作品②-太宰治の小説				
7	語り手不在の「文学」作品-「チャーリーブラウンなぜなんだい」				
8	最終試験				

分野	基礎分野	授業科目名	英語Ⅱ（日常会話）	単位	1 単位：15時間
対象学生	2年生（22期生）	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	大坪 有実	実務経験	—	Caring for People（センゲージラーニング株式会社）	
授業のねらい・学習目標 入院時、通院時の外国人患者様との様々なシチュエーション会話例文を学び、患者様との円滑なコミュニケーションがとれるようになる。				成績評価の方法 定期試験	
回	授 業 計 画			備考	
1	Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする			CDプレイヤー	
2	Taking a Medical History 病歴および健康状態を把握する			CDプレイヤー	
3	Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする			CDプレイヤー	
4	Taking Vital Signs バイタルサインを確認する			CDプレイヤー	
5	Taking a Specimen 検体を採取する			CDプレイヤー	
6	Conducting Medical Examinations 検査の注意や指示をする			CDプレイヤー	
7	Assessing Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする			CDプレイヤー	
8	定期試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病の成り立ち (病理学)			単位	1 単位 : 30 時間
対象 学生	2 年生 (22 期生)	開講 時期	2 年次 前期 (A 組) 後期 (B 組)			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎 病理学 疾病	
担当 講師名	松田 勝也 30 時間 (実習支援) 4 時間 (2 コマ)			実務 経験	10	の成り立ちと回復の促進① (医学書院)	
学習目標 疾病の原因・発生機序と生体に現れる変化を理解する。						成績評価の方法 筆記試験 レポート	
回	授 業 計 画					備考	
1	病理学で学ぶこと/生活習慣と環境因子による生体の障害 (松田)						
2	細胞・組織の損傷と修復, 炎症 (松田)						
3	細胞・組織の損傷と修復, 炎症 (松田)						
4	免疫, 移植と再生医療 (松田)						
5	免疫, 移植と再生医療 (松田)						
6	感染症 (松田)						
7	循環障害 (松田)						
8	代謝障害 (松田)						
9	老化と死 (松田)						
10	先天異常と遺伝性疾患 (松田)						
11	腫瘍 (松田)						
12	腫瘍 (松田)						
13	組織診断実習 (松田/松岡)						
14							
15	腫瘍・まとめ (松田)						

分野	専門基礎分野	授業 科目名	疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)			単位	1単位:30 時間
対象 学生	2 年生(22 期生)	開講 時期	2 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 成人看護学⑬ 眼 (医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉(医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑫ 皮膚 (医学書院) ○系看専門分野 成人看護学⑮ 歯・口腔(医学書院)	
担当 講師名	眼 :宮城 清弦 耳鼻咽喉:宮本 育江 皮膚 :東 江里夏 口腔 :久松 徳子	8 時間 8 時間 8 時間 6 時間	実務 経験	1-1 1-1 1-1 1-1			
学習目標 感覚器の病態生理、症状、検査、治療を理解し、身体アセスメントの 基礎的知識を習得する。						成績評価の方法 筆記試験 眼 :25 点 耳鼻咽喉:25 点 皮膚 :25 点 口腔 :25 点	
回	授 業 計 画						備 考
眼							
1	眼の構造と機能、検査法						
2	結膜、角膜の疾患						
3	白内障、緑内障						
4	糖尿病網膜症、網膜剥離						
耳鼻咽喉							
5	総論(耳鼻咽喉科とは?)・解剖(耳・鼻・咽頭)						
6	喉頭の解剖・中耳の疾患						
7	聴力検査・内耳の疾患・アレルギー性鼻炎						
8	副鼻腔炎・咽頭・喉頭の疾患・頭頸部癌						
皮膚							
9	皮膚科とは? 原発疹・続発疹・皮膚検査・治療						
10	湿疹及び皮膚炎群・薬疹・中毒疹・水疱症・角化症						
11	腫瘍・母斑症・感染症・膠原病						
12	皮膚癌における癌告知とインフォームド・コンセント						
口腔							
13	口腔疾患						
14	口腔疾患と歯科治療概論						
15	摂食・嚥下障害とリハビリテーション						

分野	専門基礎分野	授業科目名	看護の臨床判断		単位	1 単位：15 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 臨床看護総論（医学書院）	
担当講師名	本田 和也		実務経験	1-1	○検査値早わかりガイド（サイオ出版） ○系看護専門分野 成人看護学〔7〕脳・神経（医学書院）	
学習目標 1. 臨床判断の基盤となる「気づき、解釈、反応、省察」の考え方を理解する。 2. 科学的根拠に基づく分析的・論理的思考の基本を理解する。 3. 臨床判断能力に必要な科学的根拠を理解する。					成績評価の方法 筆記試験 レポート グループワーク参加態度 グループワーク発表内容	
回	授 業 計 画					備 考
1	看護の臨床判断とは 看護の臨床判断の必要性					合同講義
2	臨床判断のプロセス①（気づき・解釈）					合同講義
3	臨床判断のプロセス②（反応・省察）					合同講義
4	事例を用いた臨床判断のプロセスについて					合同講義
5	臨床判断能力に必要な科学的根拠と批判的・論理的思考について					合同講義
6	事例を用いた臨床判断のプロセスに関する検討					グループワーク（合同）
7	臨床判断のプロセスについての発表					グループ発表（合同）
8	看護の臨床判断の必要性、まとめ					合同講義

分野	専門基礎分野	授業科目名	医療倫理	単位	1単位:30 時間
対象学生	2 年生(22 期生)	開講時期	2 年次 後期	テキスト、参考書、使用教材 ○テキストは使用しません。 ○講義と映像教材。 ○質問等があれば下記のメールでも受け付けます。 shshino@nagasaki-u.ac.jp	
担当講師名	篠原 駿一郎	実務経験	—		
学習目標 人々の心身の健康と福祉に貢献すべき医療従事者には優れた人間性が求められる。とりわけ、多様な価値を有する患者と接する医療現場にあっては、高度な知識と技術だけでなく、それぞれの患者に即した深い人間理解が必要である。倫理に裏打ちされた医療を考えること、これを学習の目標とする。				成績評価の方法 授業への熱意と期末テスト 100 点	
回	授 業 計 画				備 考
1	伝統的医療倫理				
2	現代の医療倫理(生命倫理)①				
3	現代の医療倫理(生命倫理)②				
4	生殖医療の倫理①				
5	生殖医療の倫理②				
6	病気治療の倫理①				
7	病気治療の倫理②				
8	病気治療の倫理③				
9	先端医療の倫理①				
10	先端医療の倫理②				
11	終末期医療の倫理①				
12	終末期医療の倫理②				
13	医療と社会①				
14	医療と社会②				
15	テスト				

分野	専門基礎分野	授業科目名	社会福祉	単位	2単位：30時間
対象学生	2年生（22期生）	開講時期	2年次 前期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門基礎分野	
担当講師名	飛永 高秀	実務経験	5	健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉（医学書院）	
授業のねらい・学習目標 コメディカルである看護師が、対象である「患者」をよりよく理解するために「生活者」という視点で改めて捉え直し、社会福祉の制度と生活理解を深めることをねらいとし、他職種連携が円滑に行えるよう広い視野を持てるようにすることを目標とする。				成績評価の方法 講義に対する姿勢等と試験結果によって総合的に評価する。	
回	授 業 計 画				備 考
1	看護職が社会福祉を学ぶ意味について				
2	社会保障制度①				
3	社会保障制度②				
4	低所得者福祉①				
5	低所得者福祉②				
6	子ども家庭福祉①				
7	子ども家庭福祉②				
8	障がい児・者福祉①				
9	障がい児・者福祉②				
10	高齢者福祉①				
11	高齢者福祉②				
12	高齢者福祉③				
13	社会福祉実践と援助理論・方法①				
14	社会福祉実践と援助理論・方法②				
15	まとめ・試験				

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)			単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	薬物療法と看護： 橋口 あゆみ 30 時間			実務経験	1-1	○系看護専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ○看護技術プラクティス（学研）	
学習目標 1. 薬物療法に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 2. 各与薬法の特徴を理解し、安全に実施するための基礎的技術・態度を習得する。 3. 薬物療法における医療安全と法的責任について理解できる。 4. 輸血の基本的事項を学ぶ						成績評価の方法 筆記試験・レポート 校内演習出席状況、参加態度	
回	授 業 計 画						備考
薬物療法と看護							
1	・ 与薬の基礎知識（薬物動態、吸収経路、吸収速度）						
2	・ 薬物療法における看護師の役割と責任（与薬方法、薬剤管理、医療安全）						
3	・ 薬物療法と看護（経口与薬）						
4	・ 薬物療法と看護（吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬）						
5	・ 注射の基礎知識（目的、種類、特徴） ・ 注射器具の基礎知識（注射器、注射針の種類と構造）						
6	・ 注射器具・注射薬の取り扱いの実際						演習 レポート
7	・ 皮下、筋肉内、皮内注射と看護						課題レポート
8	・ 皮下注射の実際（シミュレーターでの実施）						演習 レポート
9	・ 筋肉内注射の実際（シミュレーターでの実施）						
10	・ 静脈内、点滴静脈内注射と看護①						課題レポート
11	・ 静脈内、点滴静脈内注射と看護②						
12	・ 点滴静脈内注射の実際（シミュレーターでの実施）、管理						演習 レポート
13	・ 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱い						
14	・ 化学療法受ける患者の看護 ・ 輸血の基礎知識と看護						
15	・ 薬物療法における臨床判断 ・ まとめ						

分野	専門分野	授業科目名	基礎看護学 診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護／放射線療法と看護 ／食事療法)			単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 医学書院	
担当講師名	臨床検査：4 時間 2 時間 検査（看護）：深松 亜紀子 12 時間 放射線療法：6 時間 食事療法：池田 直美 6 時間			実務経験	1-1 9	○系看専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学〔4〕臨床看護総論 ○系看 別巻 臨床放射線医学 ○系看 別巻 栄養食事療法 ○看護技術プラクティス（学研）	
学習目標 1. 検査に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 2. 放射線療法に必要な基礎的知識と看護師の役割が理解できる。 3. 看護実践に必要な食事療法の基礎的知識が理解できる。						成績評価の方法 筆記試験・演習参加状況 検査（看護）：40 点 放射線療法と看護：30 点 食事療法：30 点	
回	授 業 計 画						備考
臨床検査							
1	臨床検査とは 臨床検査の役割 検査に用いる器具と薬品 検体の取り扱い方						
2	腫瘍マーカー・炎症マーカー 検査報告書						
3	臨床検査（心電図・呼吸機能）						
検査（看護）							
4	検査の目的・種類 検査を受ける対象者の心理 検査における看護師の役割						
5	検査時の看護①						
6	検査時の看護②						
7	静脈血採血：技術と安全管理						
8 9	演習（シミュレーターを使った採血演習）						演習
放射線療法と看護							
10	放射線療法について						
11	放射線による障害と防護						
12	放射線治療を受ける患者の看護						
食事療法							
13	食事療法の意義・栄養サポートチームにおける役割分担他 自分自身の食事を見直すために、病人食の特徴と種類 コントロール食、食事、栄養評価法、栄養成分別食事管理、						
14	栄養代謝性疾患の食事療法						
15	循環器疾患・腎泌尿器疾患・消化器疾患の食事療法						

分野	専門分野	授業 科目名	基礎看護学 臨床判断と看護実践			単位	2 単位：45 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○看護技術プラクティス（学研） ○系看護専門分野 臨床看護総論	
担当講 師名	健康段階 呼吸困難 消化器・排泄障害 意識障害	: 深松 亜紀子 8 時間 : 樋口 香織 12 時間 : 橋口 あゆみ 12 時間 : 岳口 亜樹 13 時間	実務 経験		1-1 1-1 1-1 1-1		
学習目標						評価の方法 筆記試験 演習（参加姿勢・態度） 授業態度（個人学習、グループワーク、記録提出状況） ・健康段階 20 点 ・呼吸困難 30 点 ・消化器・排泄障害、意識障害 50 点	
1 ． 分析的・論理的思考に基づいた状況判断ができる。							
2 ． 瞬時に考え実践するための臨床判断の方法を習得する。							
回	授 業 計 画					備 考	
1	I．健康段階の経過に基づく看護 1．急性期における看護 迅速な観察と適切な判断・対応					講義	
2	2．慢性期における看護 合併症の予防と良好な状態の維持					講義	
3	3．リハビリテーション期における看護 生じやすい二次障害（廃用症候群）の予防					講義	
4	4．終末期における看護 変化していく症状の観察と適切な判断・対応					講義	
5	II．症状の変化に対する対象者への看護 1．呼吸困難のある患者の事例①事例共有、気づき、解釈						
6	2．呼吸困難のある患者の反応・省察						
7	3．呼吸困難のある患者の事例②事例共有、気づき、解釈						
8	4．呼吸困難のある患者の反応・省察						
9	5．発表、リフレクション						
10	6．呼吸困難のある患者への看護実践					演習	
11	III．症状の変化に対する対象者への看護 1．嘔吐のある患者の事例①事例共有、気づき、解釈						
12	2．嘔吐のある患者の反応・省察						
13	3．嘔吐のある患者の事例②事例共有、気づき、解釈						
14	4．嘔吐のある患者の反応・省察						

15	5. 発表、リフレクション	
16	6. 便秘・嘔吐のある患者への看護実践	演習 座薬挿肛
17	IV. 症状の変化に対する対象者への看護 1. 意識障害のある患者の理解①事例共有、気づき、解釈	事例提示
18	2. 意識障害のある患者の反応・省察	
19	3. 意識障害のある患者の理解②事例共有、気づき、解釈	
20	4. 意識障害のある患者への反応・省察	
21	6. 発表、リフレクション	
22	7. 意識障害のある患者への看護実践	演習 意識レベル確認・麻痺レベル確認
23	まとめ	

回	授 業 計 画	備 考
主な在宅看護		
12	訪問看護の現状・導入時期別特徴	
13	療養をしている小児の看護・独居者への支援	
14	呼吸器疾患を患っている療養者の看護	
15	難病	
16	終末期の看護(看取り) 介護する人への支援	
在宅看護過程		
17	在宅看護における看護過程と導入時期別特徴	
18	在宅看護過程の実際(事例を用いて) 事例:筋萎縮性側索硬化症療養者とその家族(情報収集)	
19	事例による在宅看護過程の実際 看護過程展開①(疾患の理解・情報収集)	
20	事例による在宅看護過程の実際 看護過程展開②(情報の整理・アセスメント)	
21	事例による在宅看護過程の実際 ケアの方向性+看護計画立案	グループ学習
22	事例による在宅看護過程の実際 グループ学習発表(事例について共有学習)	発表
23	事例による在宅看護過程の実際 まとめ	*45分

分野	専門分野	授業 科目名	地域・在宅看護論 家族看護論		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材 ○系統看護学講座 別巻 家族看護学	
担当 講師名	森藤香奈子 永江誠治 本多直子 神徳備子	:18 時間 :4 時間 :4 時間 :4 時間	実務 経験	1-1 1-1 1-1 1-1		
学習目標				成績評価の方法 1～6 回の授業レスポンス：5 点×6 回＝30 点 急性期 10 点 慢性期、母性、小児、精神（各 2 回） ：15 点×4 領域＝60 点 計 100 点 ※スマートフォンを使用して、授業レポートを 提出するので、準備すること。スマートフォン をもっていない学生、忘れた学生はその旨申し 出て下さい。		
回	授 業 計 画				備 考	
1	家族看護とは				森藤香奈子	
2	家族看護の対象理解				森藤香奈子	
3	家族看護を支える理論と介入方法①				森藤香奈子	
4	家族看護を支える理論と介入方法②				森藤香奈子	
5	家族看護過程の方法①（視点・枠組み・情報収集・アセスメント）				森藤香奈子	
6	家族看護過程の方法②（看護問題の明確化・計画立案・実施）				森藤香奈子	
7	事例に基づく家族看護学の実践（急性期患者の家族看護）				森藤香奈子	
8	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護①）				森藤香奈子	
9	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護②）				森藤香奈子	
10	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護：小児①）				本多直子	
11	事例に基づく家族看護学の実践（慢性期患者の家族看護：小児②）				本多直子	
12	事例に基づく家族看護学の実践（周産期に関する家族看護①）				神徳備子	
13	事例に基づく家族看護学の実践（周産期に関する家族看護②）				神徳備子	
14	事例に基づく家族看護学の実践（精神疾患患者の家族看護①）				永江誠治	
15	事例に基づく家族看護学の実践（精神疾患患者の家族看護②）				永江誠治	

分野	専門分野	授業科目名	地域・在宅看護論 在宅看護における医療処置			単位	1 単位：15 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 地域・在宅看護論 2 地域在宅看護の実践（医学書院） ○系看護専門分野 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器（医学書院） ○ビデオ 透析生活／新しい命をありがとう	
担当講師名	医療処置：西村 松美 人工透析：		2 時間 4 時間 4 時間 5 時間	実務経験	1-1		
学習目標 在宅看護の基本的な医療処置に伴う援助・状況に応じた看護について理解する。						成績評価の方法 筆記試験 医療処置：60 点 人工透析：40 点	
回	授 業 計 画					備 考	
医療処置							
1	在宅酸素療法・NPPV、在宅人工呼吸療法と排痰法					西村松美	
2	褥瘡						
3	経管栄養・在宅中心静脈栄養法						
4	尿道留置カテーテル・ストーマ						
5	疼痛管理・緩和						
人工透析							
6	腎臓のしくみ、はたらき、急性腎不全、慢性腎不全について 透析導入期のビデオ						
7	透析療法、CAPD、血液透析について						
8	透析療法・日常管理について・腎移植について						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 救急医療と看護			単位	1 単位：15 時間
対象学生	2 年生 (22 期生)	開講時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材	
担当講師名	救急医療：6 時間 救急看護：加藤 綾 9 時間		実務経験	1-1		○系看別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) ○系看別巻 救急看護学 (医学書院)	
学習目標 救急医療と看護 ・救急医療体制を理解できる。 ・救急医療における倫理的問題と看護師の役割が理解できる。 ・救急看護の対象の特徴を理解できる。 ・救急看護の対象と家族のおかれた状況（体験）と必要な援助について理解できる。 ・救急時の対応が理解できる						成績評価の方法 1. 学習態度 2. 筆記試験 救急医療：4 0 点 救急看護：6 0 点	
回	授 業 計 画						備 考
救急医療							
1	救急医療について（救急処置の実際）＊臨床外科看護総論						
2	外傷への対応 ショックへの対応 ＊救急看護学						
3	呼吸障害への対応 ＊救急看護学 脳死への対応 ＊救急看護学						
救急看護							
4	救急看護の定義と役割 救急医療体制 救急看護の対象と家族の理解						
5	一次救命処置の演習						BLS 演習 (7 階体育館)
6	応援要請の方法 胸骨圧迫・人工呼吸・A E D						
7	心肺停止状態への対応 意識障害への対応						
8	体温異常への対応 熱傷への対応						

分野	専門分野	授業 科目名	成人看護学 手術療法と看護			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 臨床外科看護総論 （医学書院） ○系看 別巻 臨床外科看護各論 （医学書院） ○看護診断ハンドブック （医学書院） ○疾患別看護過程の展開（学研）	
担当 講師名	手術療法と看護(概論・各論)：野中 由香 腹部(食道)の手術を受ける人の看護： 腹部(腹腔鏡下)の手術を受ける人の看護： 腹部(下部消化管)の手術を受ける人の看護： 胸部(肺)の手術を受ける人の看護：(A) （B） 胸部(心臓)の手術を受ける人の看護：(A) （B） 頭部の手術を受ける人の看護：			10 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間 4 時間	実 務 経 験	1-1	
学習目標 1. 手術療法を受ける人とその家族の健康問題と看護が理解できる。 2. 手術によりボディイメージに変化の生じた人と、その家族に対する看護が理解で きる。 3. 様々な手術（腹部、胸部、頭部）を受ける人の看護が理解できる。 4. 手術療法を受ける人に特徴的な基礎看護技術を習得する。							成績評価の方法 演習（参加姿勢・態度） 筆記試験 概論・各論：50 点 腹部の手術を受ける人の看護：21 点 肺の手術を受ける人の看護：7 点 心臓の手術を受ける人の看護：7 点 頭部の手術を受ける人の看護：15 点
回	授 業 計 画						備考
手術療法と看護（概論、各論）							
1	手術前の健康問題と看護						
2	手術後の健康問題と看護						
3	手術後の健康問題と看護						
4	乳がんで手術を受ける人の看護						
5	手術によりボディイメージに変化の生じた人およびその家族への看護						
6	胃がんで手術を受ける人の看護 事例展開①						課題レポート
7	胃がんで手術を受ける人の看護 事例展開②						グループワーク
8	手術療法を受ける人に特徴的な看護技術 術後 1 日目の全身清拭、寝衣交換、弾性ストッキング着脱						演習
腹部の手術を受ける人の看護							
9	食道の手術を受ける人の看護						
10	腹腔鏡下手術を受ける人の看護 （腹腔鏡下術後特有の合併症の看護、胆嚢摘出術後の看護、胃切除後の看護）						
11	下部消化管手術を受ける人の看護 （人工肛門造設を受ける人の看護、低位前方切除術を受ける人の看護）						
胸部の手術を受ける人の看護							
12	肺・胸部の手術を受ける人の看護						
13	心臓・脈管系の手術を受ける人の看護						
頭部の手術を受ける人の看護							
14	開頭術を受ける人の看護（疾患の知識）						
15	開頭術を受ける人の看護						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 セルフマネジメントの支援			単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材 ○系看護専門分野 臨床看護総論、 ○系看護専門分野 成人看護学総論 （医学書院） ○系看護専門分野 循環器、血液・造血器、内分泌・代謝（医学書院）	
担当講師	概論：前川聖一郎 循環器障害患者の看護： 血液・造血器患者の看護：前川聖一郎 糖代謝障害患者の看護：		10 時間 8 時間 6 時間 6 時間	実務経験	1-1 1-1		
学習目標						成績評価の方法	
1. 慢性期にあり生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする人及び家族の特徴と健康問題を理解する。 2. 慢性期にある人及び家族が再発予防や自立に向けたセルフケア行動がはかれるための援助を理解する。 3. セルフケアに必要な基礎看護技術を理解する。 4. 退院支援に求められる看護師の役割を理解する。						筆記試験、授業出席、授業態度、レポート 概論:40 点 循環器：20 点 血液・造血器：20 点 糖代謝障害：20 点	
回	授 業 計 画					備 考	
概論							
1	慢性期とは、慢性病患者の特徴、セルフマネジメントの構成要素						
2	セルフマネジメントの支援 退院支援と退院調整看護師の役割						
3	病みの軌跡					事例を基に レポート提出	
4	退院支援					事例展開	
5	退院支援					事例展開	
循環器障害患者の看護							
6	心不全患者の看護						
7	弁膜症・不整脈患者の看護						
8	ペースメーカーを装着した患者の看護、虚血性心疾患患者の看護①						
9	虚血性心疾患患者の看護②、高血圧患者看護						
血液・造血器障害患者の看護							
10	患者の特徴と援助、貧血患者の看護、輸血時の看護						
11	白血病患者の看護						
12	悪性リンパ腫患者の看護、造血幹細胞移植を受ける患者の看護						
糖代謝障害患者の看護							
13	糖尿病とは、基礎編						
14	食事療法・運動療法・薬物療法						
15	薬物療法・自己血糖測定実習、患者の看護・教育指導方法						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 緩和ケア			単位	1 単位：30 時間
対象学生	2 年生（22 期生）	開講時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 別巻 緩和ケア（医学書院） ○系看専門分野 基礎看護学〔4〕 ○看護診断ハンドブック（医学書院） ○疾患別看護過程の展開（学研） ○系看専門分野 臨床看護総論	
担当講師名	緩和ケア：岳口 亜樹 16 時間 ホスピスケア：4 時間 6 時間 ペインコントロール：4 時間		実務経験	1-1			
学習目標 1. 緩和ケアの必要な人及び家族の特徴と健康問題を理解する。 2. あらゆる健康段階における緩和ケアの看護を理解する。 3. 意思決定支援について理解できる。 4. がん化学療法時の看護について理解する。 5. 疼痛のメカニズムとコントロールについて理解する。						成績評価の方法 筆記試験、看護過程展開レポート 緩和ケア：60 点 ホスピスケア：30 点 ペインコントロール：10 点	
回	授 業 計 画					備考	
緩和ケア							
1	緩和ケアとは 緩和ケアにおける意思決定支援とは						
2	全人的ケアの実践 1 ・身体的ケア						
3	全人的ケアの実践 2 ・心理的ケア ・スピリチュアルケア						
4	全人的ケアの実践 3 ・社会的ケア：住み慣れた地域での暮らしの支援						
5	臨死期のケア 家族のケア						
6	緩和ケアを必要とする人及び家族への看護 ・緩和ケアに用いられる看護実践 終末期（肺がん）患者の看護					冬季休暇中に看護 過程展開の課題あり	
7	終末期（肺がん）患者の看護						
8	がん化学療法時の看護						
ホスピスケア							
9	ホスピスでの緩和ケア（看護介入）						
10	苦痛のある患者・家族への看護実践（No. 1）						
11	苦痛のある患者・家族への看護実践（No. 2）						
12	危篤（死亡直前期）・臨終・死亡時の看護と死後ケア						
13	スピリチュアルケアとコミュニケーション						
ペインコントロール							
14	痛みについて						
15	麻薬について						

分野	専門分野	授業科目名	成人看護学 生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)			単位	1 単位：15時間
対象学生	2年生（22期生）	開講時期	2年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 成人看護学〔2〕 呼吸器 ○系看護専門分野 成人看護学〔10〕 運動器 ○系看護専門分野 成人看護学〔5〕 消化器	
担当講師名	呼吸機能障害患者の看護：6時間 運動機能障害患者の看護：6時間 肝機能障害患者の看護：加藤 綾 3時間			実務経験	1-1	(医学書院)	
学習目標 ①呼吸機能障害のある患者の看護を理解することができる。 ②運動機能障害のある患者に対して、特徴的な基礎看護技術や日常生活の援助、生活行動拡大に向けての援助を理解する。 ③肝機能障害のある患者の検査・治療に対する看護を理解することができる。						成績評価の方法 筆記試験 呼吸機能障害：40点 運動機能障害：40点 肝機能障害：20点	
回	授 業 計 画						備考
呼吸機能障害患者の看護							
1	症状に対する看護（せき、喀たん、血たん、呼吸困難 他） 酸素療法を受ける患者の看護 在宅酸素療法						
2	人工呼吸器を装着する患者の看護 吸入療法を受ける患者の看護 呼吸理学療法を受ける患者の看護						
3	検査を受ける患者の看護 胸腔ドレナージ、呼吸機能検査 疾患をもつ患者の看護（肺炎・気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患）						
運動機能障害患者の看護							
4	運動器疾患看護を学ぶにあたって 1）患者の特徴 2）看護の役割 3）姿勢、運動を支えるしくみ 4）良肢位アラインメント 5）合併症予防						
5	運動器疾患患者の看護 1）症状に対する看護 2）ギプス固定を受ける患者の看護 3）牽引療法を受ける患者の看護 4）手術療法を受ける患者の看護						
6	運動器疾患をもつ患者の看護 1）骨折 ①上肢の骨折 ②下肢の骨折 ③大腿骨頸部骨折 2）脊椎、脊髄疾患の看護 ①腰椎椎間板ヘルニア ②腰部脊柱管狭窄症 ③脊髄損傷						
肝機能障害患者の看護							
7	肝臓の働き 症状と病態生理 検査 肝炎の治療・看護						
8	肝硬変の症状と治療・看護 肝癌の治療と看護						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学 老年看護援助技術			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当 講師名	生活機能を整える看護・治療：本多麻友美 20 時間 創傷看護：4 時間 レクリエーション：6 時間			実務 経験	1-1	○系看護専門分野 老年看護学 (医学書院)	
学習目標						成績評価の方法	
・高齢者の生活機能を整える看護について理解する。 ・治療を受ける老年者の看護上の問題を理解する。						筆記試験・授業参加態度等 生活機能・治療：80 点 創傷看護：20 点	
回	授 業 計 画					備考	
生活機能を整える看護・治療を受ける高齢者の看護							
1	症候のアセスメントと看護（脱水 他）						
2	身体疾患のある高齢者の看護① （脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・肺炎・骨粗しょう症・骨折・パーキンソン病他）						グループワーク
3	身体疾患のある高齢者の看護② （脳卒中・心不全・糖尿病・COPD・肺炎・骨粗しょう症・骨折・パーキンソン病他）						グループワーク
4	清潔と看護ケア						
5	排泄と看護ケア						
6	排泄と看護ケア（おむつ体験共有学習）						グループワーク
7	生活リズムと看護ケア、転倒・廃用症候群						
8	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア① （検査・手術）						
9	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア② （せん妄・薬物）						
10	検査・治療を受ける高齢者への看護ケア③ （入退院・リハビリ）						
創傷看護							
11	褥創の分類と要因・リスクアセスメント・皮膚の働きスキンケア・除圧について						
12	栄養・アセスメント・創傷被覆材・軟膏について						
レクリエーション							
13	レクリエーションと作業療法						
14	RO・回想法・音楽療法						
15	レクリエーション実技						演習

分野	専門分野	授業 科目名	老年看護学 老年期に特有な障害と看護			単位	2 単位：45 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 老年看護学 (医学書院) ○系看専門分野 成人看護学 7 脳・神経 (医学書院) ○別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)	
担当 講師名	認知機能障害の看護： 認知機能障害・終末期の看護： 摂食・嚥下機能障害の看護： 言語療法： 脳神経障害患者の看護： 看護過程（脳梗塞事例）：渡辺 美樹子			12 時間 6 時間 4 時間 4 時間 19 時間	実務 経験	1-1	
学習目標 ・ 老年者に多くみられる感覚器障害、摂食・嚥下機能障害、認知機能障害について、その看護を理解する。 ・ 終末期にある高齢者とその家族に対する看護を理解する。 ・ 脳梗塞による片麻痺のある高齢者の事例に対し、演習を通してその看護の方法を理解する。						成績評価の方法 筆記試験 認知機能障害：15 点 認知機能障害・終末期:15 点 摂食・嚥下機能障害：15 点 言語療法：15 点 脳神経障害：10 点 看護過程:30 点（演習への 取り組み・レポート）	
回	授 業 計 画						備考
認知機能障害／認知機能障害・終末期の看護							
1	認知症の看護（基本的対応、日常生活援助、認知症高齢者やその家族を支える仕組み、地域との連携 など）						外部講師
2/3	〃						外部講師
4	ユマニチュード 他						外部講師
5/6	終末期にある高齢者とその家族に対する看護						外部講師
摂食・嚥下機能障害の看護							
7	加齢による摂食・嚥下障害の病態と要因、アセスメント						外部講師
8/9	摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護						外部講師
言語療法							
10	言語聴覚士とは？ 失語症・構音障害・言語障害の種類について						外部講師
11	よりよい会話パートナーとなるための演習						演習
脳神経障害患者の看護							
12	1) 患者の特徴 2) 疾患の経過と看護 3) 症状と看護						外部講師
13	4) 脳梗塞により片麻痺のある患者の看護 5) パーキンソン病患者の看護						外部講師
14	事例「脳梗塞の回復期の看護」について：事例紹介						
15	関連図作成・問題点の抽出：グループワーク						グループワーク
16/17	看護計画の立案・看護の実際						グループワーク
18/19	看護の実際（ロールプレイの練習）						演習
20/21	看護の実際（発表）						演習
22/23	関節可動域訓練 まとめ						演習含め 3 h

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学 小児看護学援助技術		単位	1 単位：15 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 小児看護学概論・臨床総論 （医学書院） ○系看専門分野 小児各論（医学書院） ○写真でわかる小児看護技術 （インターメディカ）	
担当 講師名	原田 恵		実務 経験	1-1		
学習目標 1. 小児看護を行ううえで必要な看護技術を理解する。					成績評価の方法 筆記試験	
回	授 業 計 画					備 考
1	小児とのコミュニケーション技術					
2	日常生活の援助技術					
3	バイタルサインの測定					
4	フィジカルアセスメント					
5	検査・診察・与薬・吸入時の援助					
6	輸液管理・身体計測・シーネ固定の演習					演習
7	プレパレーション企画					
8	プレパレーション 発表 リフレクション					演習
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学 小児期における健康障害	単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看護専門分野 小児 各論 (医学書院)	
担当 講師名		実務 経験			
授業のねらい・学習目標 小児に特有な疾患などの病態生理、症状、検査、治療を理解し、 身体アセスメントの基礎的知識を習得する。				成績評価の方法 筆記試験 100 点	
回	授 業 計 画				備 考
1	呼吸器				
2	消化器				
3	免疫・アレルギー性疾患（気管支喘息 他）				
4	循環器（先天性心疾患・川崎病 他）				
5	腎臓・泌尿器・生殖器				
6	内分泌・代謝				
7	感染症				
8	感染症				
9	血液・造血器・悪性新生物				
10	神経				
11	運動器・皮膚・眼・耳鼻咽喉				
12	先天異常				
13	新生児の疾患（SIDS含む）				
14	小児救急・事故と外傷				
15	総復習				

分野	専門分野	授業 科目名	小児看護学 小児期における看護		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門分野 小児概論・臨床総論（医学書院） ○系看専門分野 小児 各論 （医学書院）	
担当 講師名	田原 えりか 西村 松美 }	12 時間 8 時間 10 時間	実務経験	1-2 1-1		
学習目標 1. 様々な状況にある小児と家族の特徴と健康問題を理解する。 2. 様々な状況にある小児と家族への援助を理解する。 3. 健康問題があり地域で暮らす小児と家族への支援を理解する。				成績評価の方法 筆記試験、出席状況 ： 60 点 ： 40 点		
回	授 業 計 画					備考
1	健康問題／障害および入院が子どもと家族に与える影響					田原えりか グループワーク
2	急性期にある子どもと家族の看護 1. 急性期の子どもと家族の看護 2. 急性期に特徴的な症状と看護①					田原えりか
3	急性期にある子どもと家族の看護 2. 急性期に特徴的な症状と看護②					田原えりか
4	慢性期にある子どもと家族の看護（身体的・心理的・社会的特徴を考える）					田原えりか
5	終末期にある子どもと家族の看護 1. 終末期の特徴 2. 生命・死についての子どものとらえ方 3. 子どもと家族の看護 4. 子どもをなくした家族の看護					田原えりか
6	事例を用いた看護過程①					田原えりか 事例：川崎病 課題あり
7	障害のある子どもと家族の看護 1. 障害の種類と定義 2. 障害の受容 3. 子どもと家族の日常生活への支援と社会的支援					西村松美
8	在宅療養を行う子どもと家族の看護 1. 在宅療養を行う子どもと家族の特徴と看護 2. 子どもの在宅療法 3. 子どもの地域連携					西村松美
9	虐待が疑われる子どもと家族の看護 1. 児童虐待の分類 2. 児童虐待の予防と早期発見 3. 医療機関における看護師の役割 4. 子どもと家族の援助					西村松美
10	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護 1. 先天異常の種類と特徴 2. 先天異常をもつ子どもと家族の看護					西村松美
11	入院中の子どもと家族の看護 （病院環境や退院後を見すえた看護など） 活動制限（治療や骨折など）を要する子どもと家族の看護					
12	周手術期における子どもと家族の看護					
13	痛みのある子どもと家族の看護					
14	感染症に罹患している子どもと家族の看護 化学療法を受ける子どもと家族の看護					
15	ハイリスク新生児と家族の看護					

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学 周産期の経過／新生児の看護			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期			テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門Ⅱ母性看護学② 母性看護学各論（医学書院） ○カラー写真で学ぶ周産期の看護 技術（医歯薬出版） ○カラー写真で学ぶ新生児の観察 と看護技術（医歯薬出版）	
担当 講師名	周産期の経過：小寺 宏平 新生児の看護：馬場 直美	22 時間 8 時間		実務 経験	1-2 2		
学習目標 1. 正常な妊娠・分娩・産褥の経過及び新生児の生理を理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥の異常経過について理解する。 3. 新生児の生理をふまえ、子宮外生活適応過程に合わせた看護を理 解する。						評価の方法 筆記試験 妊娠・分娩・産褥の経過：80 点 新生児の看護：20 点	
回	授 業 計 画						備 考
周産期の経過							
1	正常妊娠の成立機序、妊娠悪阻、流産、異所性妊娠						
2	不妊症（検査・治療など）、不育症						
3	妊娠週数の表現法、妊娠による母体の変化、妊娠経過の判断						
4	正常分娩の経過、分娩の 3 要素、分娩機転、						
5	正常分娩の管理、骨盤計測、分娩の母児に及ぼす影響、産痛						
6	異常妊娠①（常位胎盤早期剥離、前置胎盤、羊水異常、子宮内胎児発育遅延など）						
7	異常妊娠②（多胎、微弱陣痛、CPD、産科ショック、DIC など）						
8	周産期の感染症						
9	合併症妊娠（妊娠高血圧症候群、糖尿病、血液疾患など）						
10	胎児の評価、産褥期						
11	新生児の特徴・異常						
新生児の看護							
12	新生児のアセスメントと看護①						講義・GW
13	新生児のアセスメントと看護②						講義・GW
14	新生児の看護						演習
15	(バイタルサイン測定・沐浴・体重測定・抱き方・寝かせ方・オムツ交換 他)						

分野	専門分野	授業 科目名	母性看護学 妊婦・産婦・褥婦の看護		単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 前期・後期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院） ○カラー写真で学ぶ周産期の看護技術	
担当 講師名	吉本 直子 ：10 時間 ：8 時間 ：12 時間	実務 経験	2			
学習目標						評価の方法
・妊娠による身体の変化を理解し、健康に妊娠期を送るために必要な看護を理解できる。 ・産婦の心理的变化を理解し、分娩時の看護を理解できる。 ・産褥期の生理的变化を理解し、新生児を含め母親役割獲得過程やセルフケア能力を持っている褥婦への看護や育児支援を理解できる。 ・ウェルネスの視点を持って妊婦・産婦・褥婦のアセスメントができる。						筆記試験 提出物
回	授 業 計 画					備 考
1	妊娠・分娩・産褥の基礎					
2	妊娠期の身体的特徴					
3	妊娠期に行われる検査・処置					
4	妊娠期の看護					
5	分娩の経過					
6	分娩期のアセスメントと看護					
7	産褥期の身体的変化					
8	母乳育児支援					
9	産褥期の看護					
10	周産期の心理的变化					
11	地域における育児支援の実際①					グループワーク
12	地域における育児支援の実際②					発表
13	周産期のアセスメント①					
14	周産期のアセスメント②					
15	周産期のアセスメント③					

分野	専門分野	授業科目名	母性看護学 リプロダクティブヘルス	単位	1単位：15時間
対象学生	2年生（22期生）	開講時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材等 ○系看 専門分野 母性看護学 1 母性看護学概論（医学書院） ○系看 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論（医学書院）	
担当講師名	馬場 直美	実務経験	2		
授業のねらい・学習目標 ・リプロダクティブヘルスにおいて対象者の権利と意思を尊重することの重要性を理解できる。 ・リプロダクティブヘルスケアの中で対象者の意思決定支援について説明できる。				成績評価の方法 出席状況、授業態度、筆記試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	リプロダクティブヘルス／ライツ 「性と生殖に関する健康と権利」				講義・DVD視聴・GW
2	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画				講義・DVD視聴・GW
3	リプロダクティブヘルスケア② 遺伝相談				講義・GW
4	リプロダクティブヘルスケア③ セクシャリティ				講義・DVD視聴・GW
5	リプロダクティブヘルスケア④ 不妊治療と看護				講義・DVD視聴・GW
6	リプロダクティブヘルスケア⑤ 国際化社会と看護				講義・GW
7	リプロダクティブヘルスケア⑥ 性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護				講義・DVD視聴・GW
8					

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学 精神障害と治療法			単位	1 単位：30 時間
対象 学生	2 年生（22 期生）	開講 時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使 用教材等	
担当 講師名	精神疾患の治療 精神疾患とその看護 作業療法 自助グループ活動	: : : :	6 時間 14 時間 4 時間 6 時間	実務 経験		○系看専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎（医学書院）	
学習目標 1. 精神の特有な疾患などの病態生理、検査、治療を理解し、身体のアセス メントとその基礎的知識を習得する。 2. 精神看護に特有な治療法並びに援助技術を理解する。						成績評価の方法 ・筆記試験 治療：20 点 疾患とその看護：40 点 作業療法：20 点 自助グループ活動：20 点	
回	授 業 計 画					備考	
精神疾患の治療							
1	薬物療法 1						
2	薬物療法 2						
3	精神療法						
精神疾患とその看護							
4	統合失調症とその看護 1						
5	統合失調症とその看護 2						
6	気分（感情）障害とその看護						
7	神経症性障害、ストレス関連障害とその看護						
8	認知症とその看護						
9	パーソナリティ障害・摂食障害とその看護						
10	てんかん・発達障害とその看護						
作業療法							
11	精神科作業療法の意味、目的、特徴						
12	回復を支えるさまざまなプログラム、社会生活技能訓練（S S T）						
自助グループ活動							
13	集団のなかの自己、全体としてのグループ						
14	セルフヘルプ（自助）グループとは						
15	アルコール依存症とセルフヘルプ（自助）グループ活動の実際						

分野	専門分野	授業 科目名	精神看護学 精神障害の看護援助			単位	2 単位：45 時間
対象 学生	2 年生 (22 期生)	開講 時期	2 年次 後期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当 講師名	精神看護援助 状態に応じた看護 精神科デイケア における看護 地域定着支援 精神科訪問看護	: 深松 亜紀子 : : : : :	19 時間 8 時間 8 時間 4 時間 2 時間 2 時間 2 時間	実務 経験	1-1	○系看専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎〔医学書院〕 ○系看専門分野 精神看護学〔2〕 精神保健看護の展開（医学書院）	
学習目標 1. 精神看護に特有な援助技術を理解する。 2. 精神科に特有な状態に応じた看護を理解する。 3. 地域定着に必要な看護を理解する。 4. 家族支援に必要な看護を理解する。						成績評価の方法 授業態度、演習貢献度、筆記試験 精神看護援助：40 点 状態に応じた看護：40 点 精神科デイケアにおける看護：10 点 地域定着支援：10 点 精神科訪問看護	
回	授 業 計 画						備考・ 分担講師
精神看護援助技術 学内教員							
1	治療的人間関係、感情体験						
2	精神看護におけるケアの原則と方法						
3	プロセスレコード						
4	プロセスレコード検討						演習
5	精神看護におけるアセスメントの視点①						
6	精神科看護におけるアセスメントの視点②						GW
7	精神科看護における看護の展開①						
8	精神科看護における看護の展開②						GW
9	主な検査時の看護 治療過程の看護（薬物療法、精神療法、リハビリテーション）						
10	家族への支援（特徴、心理教育的アプローチ、他）						*45 分
状態に応じた看護：外部講師							
11	精神看護における観察（精神症状、表情、ふるまい、しぐさ） コミュニケーション技術の実際						
12	不安・躁状態・抑うつ・自殺のおそれ自傷のおそれのある人の看護						
13	幻覚・妄想のある人の看護						
14	せん妄、もうろう状態、アメンチアのある人の看護 摂食障害のある人の看護						
15	認知症のある人の看護（精神科入院における特徴、症状別対応、合併症予防）						

16	依存状態にある人の看護 人格障害の看護	
17	昏迷状態、不眠、拒否、興奮、強迫行為 衝動状態にある人の看護	
18	回復の意味と意思決定支援 精神科における治療的環境と治療共同体、精神科病棟の実際	
精神科デイケアにおける看護：外部講師		
19	精神科デイケアと多職種連携	
20	デイケア活動と看護の実際	
地域定着支援：外部講師		
21	退院支援と地域移行	
22	地域定着支援の実際	
精神科訪問看護：外部講師		
23	精神科訪問看護の実際	

分野	専門分野	授業科目名	看護の統合と実践 災害看護	単位	1 単位：15時間
対象 学生	2年生（22期生）	開講 時期	2年次 後期	テキスト、参考書、使用教材 医学書院 ○系看護専門分野 看護の統合と実践 災害看護学（医学書院）	
担当 講師名		実務 経験			
学習目標				成績評価の方法	
・災害の種類と災害が人々に与える影響について理解できる。 ・災害医療の特徴と災害サイクルに応じた看護が理解できる。 ・災害に対する準備性を高めることができる。				1. 学習態度 2. 筆記試験	
回	授 業 計 画				備 考
1	災害看護学を学ぶ意義 長崎県内の災害				
2	国内外の大きな災害 災害看護の定義と役割 災害の種類				
3	災害と健康障害 災害と情報				
4	災害医療と災害看護の特徴				
5	災害サイクルにそった医療・看護活動① ・急性期・亜急性期：病院、救護所、避難所				
6	災害サイクルにそった医療・看護活動② ・慢性期・復興期・静穏期				
7	災害とこころのケア 災害看護と法律 (0.5コマ)				
8	災害対応にかかわる職種間・組織間連携 遺体のケアとグリーフケア こころのケアの実際				

3 年次履修科目

専門基礎分野

専門分野

教 育 課 程

(第1看護学科)

区分・内容			単位 (時間数)	区分・内容			単位 (時間数)
基礎分野	科学的思考の	論理学	1 (30)	成人看護学	成人看護学概論	1 (30)	
		情報科学Ⅰ (情報通信技術活用の基礎)	1 (30)		救急医療と看護	1 (15)	
		情報科学Ⅱ (情報通信技術活用法)	1 (15)		手術療法と看護	1 (30)	
		教育学	1 (30)		セルフマネジメントの支援	1 (30)	
	人間と生活・社会の理解	文学	1 (15)		緩和ケア	1 (30)	
		心理学	1 (30)		生活行動障害と看護 (呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	1 (15)	
		人間関係論	1 (30)		小計	6 (150)	
		社会学	1 (15)	老年看護学	老年看護学概論	1 (30)	
		英語Ⅰ	2 (45)		老年看護援助技術	1 (30)	
		英語Ⅱ (日常会話)	1 (15)		老年期に特有な障害と看護	2 (45)	
		健康とレクリエーション体育	2 (45)		小計	4 (105)	
		看護コミュニケーション論	1 (15)	小児看護学	小児看護学概論	1 (30)	
	合 計		14 (315)		小児看護援助技術	1 (15)	
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2 (45)		小児期における健康障害	1 (30)	
		人体の生理機能	2 (45)		小児期における看護	1 (30)	
		代謝栄養学 (生化学/栄養学)	2 (45)		小計	4 (105)	
		疾病の成り立ち (病理学)	1 (30)	母性看護学	母性看護学概論	1 (30)	
		疾病論Ⅰ (呼吸/循環)	1 (30)		周産期の経過/新生児の看護	1 (30)	
		疾病論Ⅱ (消化器/内分泌・代謝)	1 (30)		妊婦・産婦・褥婦の看護	1 (30)	
		疾病論Ⅲ (血液造血/免疫/腎)	1 (30)		リプロダクティブヘルス	1 (15)	
		疾病論Ⅳ (脳神経/運動器)	1 (30)		小計	4 (105)	
		疾病論Ⅴ (手術療法/泌尿器/女性生殖器)	1 (30)	精神看護学	精神看護学概論	1 (30)	
		疾病論Ⅵ (眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔)	1 (30)		精神障害と治療法	1 (30)	
		疾病論Ⅶ (微生物学・感染症)	1 (30)		精神障害の看護援助	2 (45)	
		治療総論 (薬理学)	1 (30)		小計	4 (105)	
		看護の臨床判断	1 (15)	看護の統合と実践	災害看護	1 (15)	
	健康支援と社会	医療倫理	1 (30)		看護マネジメントと国際看護	1 (15)	
		社会福祉	2 (30)		医療安全	1 (30)	
		地域保健論	1 (15)		多職種連携・協働	1 (15)	
		関係法規	2 (30)		看護研究	1 (15)	
		合 計	22 (525)		小計	5 (90)	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1 (30)	臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ (病院での生活を理解する実習)	2 (90)	
		フィジカルアセスメント	1 (30)		基礎看護学実習Ⅱ (日常生活援助の実習)	1 (45)	
		日常生活援助技術Ⅰ (生活環境/活動と休息)	1 (30)		基礎看護学実習Ⅲ (看護過程を活用する実習)	2 (90)	
		日常生活援助技術Ⅱ (栄養と食生活/排泄)	1 (30)		小計	5 (225)	
		日常生活援助技術Ⅲ (清潔と衣生活)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅰ (施設での生活を理解する実習)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅰ (感染予防/周手術期看護/呼吸ケア)	1 (30)		地域・在宅看護論実習Ⅱ (在宅での療養生活を理解する実習)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅱ (薬物療法と看護)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅰ (あらゆる健康段階)	2 (90)	
		診療に関する援助技術Ⅲ (検査と看護/放射線療法と看護/食事療法)	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅱ (周手術期・急性期)	2 (90)	
		看護過程と看護記録	1 (30)		成人・老年看護学実習Ⅲ (退院支援)	2 (90)	
		臨床判断と看護実践	2 (45)		小児看護学実習	2 (90)	
		小計	11 (315)		母性看護学実習	2 (90)	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論概論	1 (30)		精神看護学実習	2 (90)	
		在宅看護における基本援助論	2 (45)		看護の統合実習	2 (90)	
		家族看護論	1 (30)		小計	18 (810)	
		地域における暮らしの理解	1 (30)	講義合計		80 (1,965)	
		在宅看護における医療処置	1 (15)	実習合計		23 (1,035)	
		小計	6 (150)	総 計		103 (3,000)	

教育課程一覽（進度表）

21期生

教育内容		授業科目	単位	時間数	1年次		2年次		3年次		
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30							
		情報科学Ⅰ（情報通信技術活用の基礎）	1	30							
		情報科学Ⅱ（情報通信技術活用法）	1	15							
		教育学	1	30							
	人間と生活・社会の理解	文学	1	15							
		心理学	1	30							
		人間関係論	1	30							
		社会学	1	15							
		英語Ⅰ	2	45							
		英語Ⅱ（日常会話）	1	15							
健康とレクリエーション体育	2	45									
看護コミュニケーション論	1	15									
合計		14	315	10(240)		4(75)					
専門基礎分野	人体の構造と機能・疾病の成り立ちと回復の促進	人体の構造としくみ	2	45							
		人体の生理機能	2	45							
		代謝栄養学（生化学/栄養学）	2	45							
		疾病の成り立ち（病理学）	1	30							
		疾病論Ⅰ（呼吸/循環）	1	30							
		疾病論Ⅱ（消化器/内分泌・代謝）	1	30							
		疾病論Ⅲ（血液造血/免疫/腎）	1	30							
		疾病論Ⅳ（脳神経/運動器）	1	30							
		疾病論Ⅴ（手術療法/泌尿器/女性生殖器）	1	30							
		疾病論Ⅵ（眼/耳鼻咽喉/皮膚/口腔）	1	30							
		疾病論Ⅶ（微生物学・感染症）	1	30							
		治療総論（薬理学）	1	30							
		看護の臨床判断	1	15							
		健康支援と社会保障制度	医療倫理	1	30						
	社会福祉		2	30							
	地域保健論		1	15							
	関係法規		2	30							
	合計		22	525	13(345)		6(135)		3(45)		
	専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30						
			フィジカルアセスメント	1	30						
			日常生活援助技術Ⅰ（生活環境/活動と休息）	1	30						
			日常生活援助技術Ⅱ（栄養と食生活/排泄）	1	30						
日常生活援助技術Ⅲ（清潔と衣生活）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅰ（感染予防/周手術期看護/呼吸ケア）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅱ（薬物療法と看護）			1	30							
診療に関する援助技術Ⅲ（検査と看護/放射線療法と看護/食事療法）			1	30							
看護過程と看護記録			1	30							
臨床判断と看護実践			2	45							
小計		11	315	7(210)		4(105)					
地域・在宅看護論		地域・在宅看護論概論	1	30							
		在宅看護における基本援助論	2	45							
		家族看護論	1	30							
		地域における暮らしの理解	1	30							
		在宅看護における医療処置	1	15							
小計		6	150	2(60)		4(90)					
成人看護学		成人看護学概論	1	30							
		救急医療と看護	1	15							
		手術療法と看護	1	30							
		セルフマネジメントの支援	1	30							
		緩和ケア	1	30							
		生活行動障害と看護（呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害）	1	15							
小計		6	150	1(30)		5(120)					
老年看護学		老年看護学概論	1	30							
		老年看護援助技術	1	30							
		老年期に特有な障害と看護	2	45							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
小児看護学		小児看護学概論	1	30							
		小児看護援助技術	1	15							
		小児期における健康障害	1	30							
		小児期における看護	1	30							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
母性看護学		母性看護学概論	1	30							
		周産期の経過/新生児の看護	1	30							
		妊婦・産婦・褥婦の看護	1	30							
		リプロダクティブヘルス	1	15							
小計		4	105	1(30)		3(75)					
精神看護学		精神看護学概論	1	30							
		精神障害と治療法	1	30							
		精神障害の看護援助	2	45							
		小計	4	105	1(30)		3(75)				
看護の統合と実践	災害看護	1	15								
	看護マネジメントと国際看護	1	15								
	医療安全	1	30								
	多職種連携・協働	1	15								
	看護研究	1	15								
小計		5	90			1(15)		4(75)			
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（病院での生活を理解する実習）	2	90								
	基礎看護学実習Ⅱ（日常生活援助の実習）	1	45								
	基礎看護学実習Ⅲ（看護過程を活用する実習）	2	90								
	小計	5	225	2(90)		3(135)					
	地域・在宅看護論実習Ⅰ（施設での生活を理解する実習）	2	90								
	地域・在宅看護論実習Ⅱ（在宅での療養生活を理解する実習）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅰ（あらゆる健康段階）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅱ（周手術期・急性期）	2	90								
	成人・老年看護学実習Ⅲ（退院支援）	2	90								
	小児看護学実習	2	90								
	母性看護学実習	2	90								
	精神看護学実習	2	90								
	看護の統合実習	2	90								
	小計		18	810			2(90)		16(720)		
合計		67	2160	16(510)		31(855)		20(795)			
講義合計			80	1965	37(1005)		36(840)		7(120)		
実習合計			23	1035	2(90)		5(225)		16(720)		
総計			103	3000	39(1095)		41(1065)		23(840)		

分野	専門基礎分野	授業 科目名	地域保健論		単位	1 単位：15 時間
対象 学生	3 年生（21 期生）	開講 時期	3 年次 前期		テキスト、参考書、使用教材等 ○系看専門基礎分野 健康支援と社 会保障制度〔2〕 公衆衛生（医学 書院）	
担当 講師名	日野出 悦子	1 時間 4 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間 2 時間	実 務 経 験	3		
学習目標 地域や個人を対象とした健康の保持増進をはかるために、疾病構 造、生活習慣などの視点から地域保健活動について 理解でき る。					成績評価の方法 筆記試験 公衆衛生の基礎 : 40 点 公衆衛生の実践 : 60 点	
回	授 業 計 画					備考（講師名）
1	看護行政の動向					日野出 悦子
2	公衆衛生の基礎 理念：公衆衛生の目的と活動の特徴 疫学と健康指標、新健康教育 政策立案、計画と実践評価のプロセス					
3	地域保健の特性 地域保健を取り巻く法律					
4	公衆衛生の実践 精神保健					
5	公衆衛生の実践 成人保健・難病 高齢者保健					
6	公衆衛生の実践 母子保健					
7	公衆衛生の実践 感染症と危機管理					
8	産業保健					

分野	専門基礎分野	授業科目名	関係法規			単位	2 単位：30 時間
対象学生	3 年生（21 期生）	開講時期	3 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材等	
担当講師名	看護職と法律：糟谷 操子 10 時間 関係法規：横尾 美智代 20 時間			実務経験	1-1 —	○ナースンググラフィック健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度（MC メディア出版） ○看護職の基本的責務（日本看護協会）	
授業のねらい・学習目標						成績評価の方法	
①看護職と法律 ・ 拠り所である保健師助産師看護師法について知る。 ・ 看護実践における法的責務を理解する。 ②関係法規 ・ 看護専門職に就くために必要な法的知識を理解、習得する。						筆記試験 看護職と法律：30 点 関係法規：70 点	
回	授 業 計 画					備 考	
看護職と法律							
1	保健師助産師看護師法：看護をめぐる法制度、注目すべき改正の経緯						
2	保健師助産師看護師法：構成、目的、定義、免許						
3	保健師助産師看護師法：試験、業務、罰則						
4	看護師等の人材確保の促進に関する法律						
5	看護職として、いきいきと生涯働き続けるために：労働政策に関する法律など						
関係法規							
6	法の概念：日本国憲法、衛生法とその分類、厚生行政のしくみ						
7	医療法：目的、理念、病院・診療所・助産所の規則、人員、管理など						
8	医療法：人員配置基準、記録の保存、医療提供体制、医療圏、第 5 次改正など						
9	医療法のまとめ；他の先進国との比較、医師法：医師の義務、業務などを中心に						
10	保健衛生に関する法律：地域、母子、学校での保健衛生に関連する法律を中心に						
11	保健衛生に関する法律：予防接種、感染症、検疫、食品衛生に関する法律を中心に						
12	薬務に関する法律：薬事法、薬剤師法、毒物・劇物、毒薬・向精神薬などに関する法律を中心に						
13	社会保険に関する法律：わが国の社会保障の理解、健康保険、介護保険、年金保険などの法の仕組みと関係性を中心に						
14	福祉に関する法律：児童、老人、生活保護、障害者に関連する法律を中心に						
15	産業保健と環境に関する法律：労働に関する法律、環境に関する法律を中心に						

分野	専門分野	授業 科目名	看護の統合と実践 看護マネジメントと国際看護			単位	1 単位：15 時間
対象 学生	3 年生（21 期生）	開講 時期	3 年次 前期			テキスト、参考書、使用教材	
担当 講師名	看護マネジメント：木下 日出美 国際看護：横尾 美智代	13 時間 2 時間	実務 経験	1-1 —		○ 系看護学講座 統合分野 看護管理（医学書院）	
学習目標						成績評価の方法	
1. チーム医療における看護の役割を理解できる。 2. 病院組織における看護組織と管理について理解できる。 3. 質の高い看護を提供する為の現任教育について理解できる。 4. 諸外国の健康問題と看護活動について理解する。						筆記試験 100 点	
回	授 業 計 画						備 考
1	看護とマネジメント 看護管理とマネジメント 看護におけるマネジメントの考え方の変遷 看護職のキャリアマネジメント						
2	看護ケアのマネジメント（1） 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理						
3	看護ケアのマネジメント（2） チーム医療 看護業務の実践（日常業務のマネジメント）						
4	看護サービスのマネジメント（1） 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり						
5	看護サービスのマネジメント（2） 人材・環境・物品・情報のマネジメント 組織におけるリスクマネジメント サービスの評価						
6	看護を取り巻く諸制度 医療制度 看護職の法的責任 マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント 組織の調整						
7	復習とまとめ						1 時間 (45 分)
8	国際看護（概論） 国際看護（経験者からの講義）						横尾先生

分野	専門分野	授業科目名	看護の統合と実践 医療安全	単位	1 単位 (30 時間)
対象 学生	3 年生 (21 期生)	開講 時期	3 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材	
担当 講師名	糟谷 操子	実務 経験	1-1	○系看 統合分野 看護の統合と実践 (2) 医療安全 (医学書院)	
学習目標 1. 医療安全に関する基礎的知識が理解できる。 2. 看護の対象者に対し、起こり得るリスクを予見し、回避できる行動を考えることができる。 3. 医療職の一員としての基本的な倫理観を養うことができる。 4. 授業や学会参加を通して、看護の対象者の安全を守る行動に繋げることができる。				成績評価の方法 演習 (出席状況他) (20 点) 学会参加レポート (10 点) 筆記試験 (70 点)	
回	授 業 計 画				備 考
1	医療安全を学ぶことの大切さ 医療安全に関する基礎知識				
2	医療倫理 看護職が遭遇する倫理的ジレンマ				
3	医療事故 医療事故における看護師の法的責任 看護師に必要とされる注意義務				
4	事故発生のメカニズム・事故分析				
5	療養上の世話の事故と診療の補助の事故				
6	KYT				演習
7	医療事故事例の作成①				演習
8	事例展開① ロールプレイング				演習 (実習室)
9					
10	医療事故事例の作成②				演習
11	事例展開② ロールプレイング				演習 (実習室)
12					
13	事例展開の振り返り				演習
14	看護に必要な計算問題 医療安全とコミュニケーション (Team STEPPS)				一部演習
15	令和 6 年度長崎県看護学会学術集会 参加 : 9 月 7 日 (土)				

分野	専門分野	授業科目名	看護の統合と実践 多職種連携・協働		単位	1 単位：15時間
対象学生	3年生（21期生）	開講時期	3年次 前期		テキスト、参考書、使用教材 看護師のための多職種連携 （シービーアール）	
担当講師名	糟谷 操子 15時間 大石 勝規 (4時間) 谷口 幸太郎 (4時間)		実務 経験	1-1 4 11		
学習目標 1. 多職種間の連携・協働の必要性が理解できる。 2. 多職種間のコミュニケーション能力をつける。 3. 多職種間で対象者の目標を共有することができる。					成績評価の方法 1. 出席状況 2. レポート（協同学習） 3. 筆記試験	
回	授 業 計 画					備 考
1	多職種連携の意義と学習目的					
2	多職種の役割					グループワーク
3	看護師の役割の考察					グループワーク
4	多職種連携学習の実際－1（看護学生と理学療法学生）					協同学習 こころ医療福祉専門学校
5	多職種連携学習のまとめ（看護学生と理学療法学生）					（大石勝規先生・ 理学療法科学生）
6	多職種連携学習の実際－2（看護学生と介護福祉学生）					協同学習 こころ医療福祉専門学校
7	多職種連携学習のまとめ（看護学生と介護福祉学生）					（谷口幸太郎先生・ 介護福祉科学生）
8	多職種連携・協働へ（45分）					

分野	専門分野	授業科目名	看護の統合と実践 看護研究	単位	1 単位：15時間
対象 学生	3 年生（21期生）	開講 時期	3 年次 前期・後期	テキスト、参考書、使用教材 ○系看 別冊 看護研究（医学書院）	
担当 講師名	田中準一 松浦江美	実務 経験	1-1 1-1		
看護研究とは何かを知り、研究力を育むために必要な基礎的方法について理解する。				成績評価の方法 レポート、小テスト、 プレゼンテーションの評価	
回	授 業 計 画				備 考
1	看護における研究とは：研究の目的・意義（教科書：pp. 4～31） 看護研究の始め方：リサーチクエストを立てる（教科書：pp. 34～45）				小テスト（10点）
2	文献検索（教科書：pp. 48～82） リサーチクエストの検討 ※グループワーク				小テスト（10点） リサーチクエストの提出（10点）
3	研究デザイン：量的研究・質的研究（教科書：pp. 110～149）				松浦先生 小テスト（10点）
4	データ収集：アンケートデータの収集（教科書：pp. 154～188）				小テスト（10点）
5	研究における倫理的配慮（教科書：pp. 86～104） 研究計画書の作成（教科書：pp. 246～264）				小テスト（10点）
6	情報の探索と吟味① 文献検索演習（教科書：pp48～82） ※45分授業（情報処理室）				小テスト（10点）
7	情報の探索と吟味② 文献クリティーク（教科書：pp48～82） 文献クリティーク① ※グループワーク				文献クリティークシート の提出（10点）
8	文献クリティーク② ※グループワーク・発表 まとめ				プレゼンテーションの 評価（20点）

講師一覽表

2024年度 講師一覧表

第23期生

教育内容		授 業 科 目	単 位	総時間	時間	講 師 名	備 考
基礎分野	基 礎 的 思 考 的 学 科	論 理 学	1	30	30	篠原 駿一郎	長崎大学(名誉教授)
		情 報 科 学 I (情報通信技術活用の基礎)	2	30	30	日 當 明 男 佐 藤 雅 紀	長崎総合科学大学 長崎総合科学大学
		心 理 学	1	30	30	朝 長 昌 三	長崎大学(名誉教授)
	人 間 と 生 活 ・ 理 解 ・ 社 会	人 間 関 係 論	1	30	30	黒田裕美 (A) 長 浦 由 紀 (B)	長崎大学大学院 長崎大学病院
		社 会 学	1	15	15	南 誠	長崎大学
		英 語 I	2	45	45	大 坪 有 実	
		健康とレクリエーション体育	2	45	45	飛 奈 美 耶 子	
		看護コミュニケーション論	1	15	15	吉 本 直 子	
専門基礎分野	人 体 の 構 造 と 機 能 ・ 疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	人 体 の 構 造 と し く み	2	45	45	戸 田 一 雄 (A) 介 田 圭 (B)	長崎大学大学院(名誉教授) 長崎大学大学院
		人 体 の 生 理 機 能	2	45	45	戸 田 一 雄 (A) 介 田 圭 (B)	長崎大学大学院(名誉教授) 長崎大学大学院
		代 謝 栄 養 学	2	45	20 25	宮 西 隆 幸 松 永 知 恵	長崎大学(客員教授) 活水女子大学
		疾 病 論 I	1	30	14 8 8		
		疾 病 論 II	1	30	18 12		
		疾 病 論 III	1	30	12 10 8		
		疾 病 論 IV	1	30	16 14		
		疾 病 論 V	1	30	2 2 2 6 8 4 4 10	(A) (B) (B)	
		疾 病 論 VII	1	30	18 12	有 吉 紅 也	長崎大学病院
		治 療 総 論	1	30	14 8 4 4		
		看 護 学 概 論	1	30	30	原 田 恵	
		フィシゝカルアセスメント	1	30	30	渡 辺 美 樹 子	
		日 常 生 活 援 助 技 術 I	1	30	14 16	野 中 由 香 川 根 明 日 美	
		日 常 生 活 援 助 技 術 II	1	30	12 18	田 原 え り か 岳 口 亜 樹	
		日 常 生 活 援 助 技 術 III	1	30	30	深 松 亜 紀 子	
		診 療 に 関 する 援 助 技 術 I	1	30	8 4 12 6	野 中 由 香 野 中 由 香 西 村 松 美	
		看 護 過 程 と 看 護 記 録	1	30	30	原 田 恵	
		地 域 ・ 在 宅 看 護 論 概 論	1	30	30	轟 岡 イ ツ 子	
		地 域 に お け る 暮 ら し の 理 解	1	30	26 2 2	樋 口 香 織	
		成 人 看 護 学	1	30	30	本 多 麻 友 美 (A) 岳 口 亜 樹 (B)	
		老 年 看 護 学	1	30	30	本 多 麻 友 美	
		小 児 看 護 学	1	30	30	田 原 え り か	
		母 性 看 護 学	1	30	30	吉 本 直 子	
		精 神 看 護 学	1	30	30	川 根 明 日 美	

2024年度 講師一覧表

第22期生

教育内容		授 業 科 目		単位	総時間	時間	講 師 名	備 考	
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活、社会の理解	情報科学Ⅱ	情報通信技術活用法	1	15	15	田 中 準 一	長崎大学大学院	
		教 育 学		1	30	30	山 岸 利 次	長崎大学	
		文 学		1	15	15	中 島 貴 奈	長崎大学	
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進 健康支援と社会保障制度	英語Ⅱ	日常会話	1	15	15	大 坪 有 美		
		疾病の成り立ち	病 理 学	1	30	30	松 田 勝 也	長崎大学大学院	
		疾 病 論 VI	眼	1	30	8	宮 城 清 弦	長崎大学病院	
			耳 鼻 咽 喉			8	宮 本 育 江	共立耳鼻咽喉科	
			皮 膚			8	東 江 里 夏	長崎みなとメディカルセンター	
			口 腔			6	久 松 徳 子	長崎大学病院	
		看護の臨床判断		1	15	15	本 田 和 也	国立病院機構長崎医療センター	
		医療倫理		1	30	30	篠 原 駿 一 郎	長崎大学(名誉教授)	
社会福祉		2	30	30	飛 永 高 秀	長崎純心大学			
専門分野	基礎看護学	診療に関する援助技術Ⅱ	薬 物 療 法 と 看 護	1	30	30	橋 口 あ ゆ み		
		診療に関する援助技術Ⅲ	臨 床 検 査	1	30	4			
			検 査 (看 護)			2			
			放 射 線 療 法			12	深 松 亜 紀 子		
			食 事 療 法			6			
		臨床判断と看護実践	健 康 段 階	2	45	6	池 田 直 美		
			呼 吸 困 難			8	深 松 亜 紀 子		
			消 化 器 ・ 排 泄			12	樋 口 香 織		
			意 識 障 害			12	橋 口 あ ゆ み		
		地域・在宅看護論	在宅看護における基本援助論	社 会 資 源	2	45	4		
				機 能 訓 練			4		
				主 な 在 宅 看 護			10		
	看 護 過 程			13			樋 口 香 織		
	基 本 援 助			14			鶴 岡 イ ツ 子		
	家族看護論			1	30	18	森 藤 香 奈 子	長崎大学大学院	
						4	永 江 誠 治	長崎大学大学院	
						4	本 多 直 子	長崎大学大学院	
						4	神 徳 備 子	長崎大学大学院	
	在宅看護における医療処置		人 工 透 析	1	15	5			
			医 療 処 置			2	西 村 松 美		
	成人看護学	救急医療と看護	救 急 医 療	1	15	6			
			救 急 医 療 と 看 護			9	加 藤 綾		
		手術療法と看護	手術療法と看護(概論・各論)	1	30	16			
			腹部(食道)の手術を受ける人の看護			2			
			腹部(腹腔鏡下)の手術を受ける人の看護			2			
			腹部(下部消化管)の手術を受ける人の看護			2			
			胸部(肺)の手術を受ける人の看護			2			
			胸部(心臓)の手術を受ける人の看護			2			
			頭部の手術を受ける人の看護			4			
		セルフマネジメントの支援	概 論	1	30	10	前 川 聖 一 郎		
			循環器障害患者の看護			8			
			血液・造血器障害患者の看護			6	前 川 聖 一 郎		
			糖代謝障害患者の看護			6			
		緩和ケア	緩 和 ケ ア	1	30	16	岳 口 亜 樹		
			ホ ス ピ ス ケ ア			4			
			ペインコントロール			6			
	生活行動障害と看護(呼吸機能障害/運動機能障害/肝機能障害)	呼吸機能障害患者の看護	1	15	6				
		運動機能障害患者の看護			6				
肝機能障害患者の看護		3			加 藤 綾				

専門分野	老年看護学	老年看護援助技術	生活機能を整える看護・治療 レクリエーション 創傷看護	1	30	20	本多麻友美	
						6		
						4		
		老年期に特有な障害と看護	認知機能障害の看護 認知機能障害・終末期の看護 摂食・嚥下機能障害の看護 言語療法 脳神経障害患者の看護 看護過程（脳梗塞事例）	2	45	6		
						6		
						4		
						4		
						25	渡辺美樹子	
	小児看護学	小児看護学援助技術		1	15	15	原田恵	
		小児期における健康障害		1	30	30		
		小児期における看護		1	30	12	田原えりか	
						8	西村松美	
	母性看護学	周産期の経過/新生児の看護	周産期の経過 新生児の看護	1	30	22	小寺宏平	長崎みなとメディカルセンター
						8	馬場直美	
		妊婦・産婦・褥婦の看護		1	30	20		
						10	吉本直子	
		リフ・ロタ・クティブ・ヘルス		1	15	15	馬場直美	
	精神看護学	精神障害と治療法	精神疾患の治療 精神疾患とその看護 作業療法 自助グループ活動	1	30	6		
						14		
						4		
						6		
		精神障害の看護援助	精神看護援助 状態に応じた看護 精神科デイケアにおける看護 地域定着支援 精神科訪問看護	2	45	19	深松亜紀子	
						8		
						8		
						4		
						2		
						2		
						2		
	看護の統合と実践	災害看護		1	15	15		

2024年度 講師一覧表

第21期生

教育内容		授業科目		単位	総時間	時間	講師名	備考
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	地域保健論	概論	1	15	1	日野出悦子	長崎県看護協会
			公衆衛生の基礎			4		
			公衆衛生の実践(成人・老人保健、難病)			2		
			公衆衛生の実践(母子保健)			2		
			公衆衛生の実践(感染症と危機管理)			2		
			公衆衛生の実践(精神保健)			2		
			産業保健			2		
		関係法規	看護者と法律	2	30	10	糟谷操子	
			関係法規			20	横尾美智代	西九州大学
統合分野	看護の統合と実践	看護マネジメントと国際看護	看護マネジメント	1	15	13	木下日出美	
			国際看護			2	横尾美智代	西九州大学
		医療安全		1	30	30	糟谷操子	
		多職種連携・協働		1	15	7	糟谷操子	
						4	大石勝規	こころ医療福祉専門学校
						4	谷口幸太郎	こころ医療福祉専門学校
		看護研究		1	15	2	松浦江美	長崎大学大学院
						13	田中準一	長崎大学大学院